



ストック効果事例集



Bridge : Communication & Technology

目次

1. 交通ネットワークの変遷……………	1	6. 農水産品……………	16
• 高速道路ネットワークの拡充		• 広島県産「レモン」6次産業化で地域活性化	
• 3時間圏域の変化		• 徳島県産「地鶏」のシェア拡大	
2. 本四高速道路の利用台数……………	3	• 香川県産「ブロッコリー」が東京市場でシェアを確保	
• 本四高速道路の利用台数の推移		• 愛媛県産「真鯛」が高い鮮度で大都市の市場へ出荷	
3. 自動車交通量、貨物流動量……………	4	• 高知県産「みょうが」が大都市の市場を独占	
• 本州・四国間の自動車交通量の推移		• 淡路島産「玉ねぎ」は東京市場で高値で取引	
• 本州・四国間の高速バス便数の推移		7. 製造・物流……………	22
• 全国と四国間の自動車貨物流動量の推移		• 徳島県のLED産業集積に貢献	
4. 総生産・所得……………	7	• 香川県から「冷凍食品」を全国へ出荷	
• 四国地域の生産性向上		• 高品質な「今治タオル」のシェア拡大	
5. 生活……………	8	• 今治市島しょ部に造船所が移転、地域活性化に寄与	
• 淡路島発着の高速バスで神戸・三宮が身近に		• 中四国の物流ハブとして機能が高まる岡山県	
• 岡山県と香川県間の通勤・通学が定着		• 坂出・坂出北ICに物流関連拠点が形成、就業者数が増加	
• しまなみ海道島しょ部からの通学		8. 観光……………	28
• しまなみ海道島しょ部への移住		• 海外からも人気のあるしまなみ海道	
• 住民の日常生活を支えるしまなみ海道		• 淡路島の観光客数が増加	
• 高速道路ネットワークの拡充に伴い、四国に「コンビニ」が展開		9. 救急・災害……………	30
• 淡路島・しまなみ海道の島しょ部で「コンビニ」が飛躍的に増加		• 血液製剤の安定的な供給への貢献	
• 送水管の設置により、淡路島の給水制限が解消		• 高度な医療機関の選択が可能に	
		• しまなみ海道島しょ部における救急搬送	
		• 本四3ルートによる代替路としての機能①	
		• 本四3ルートによる代替路としての機能②	
		• リダンダンシー確保により社会経済活動を支援	

高速道路ネットワークの拡充

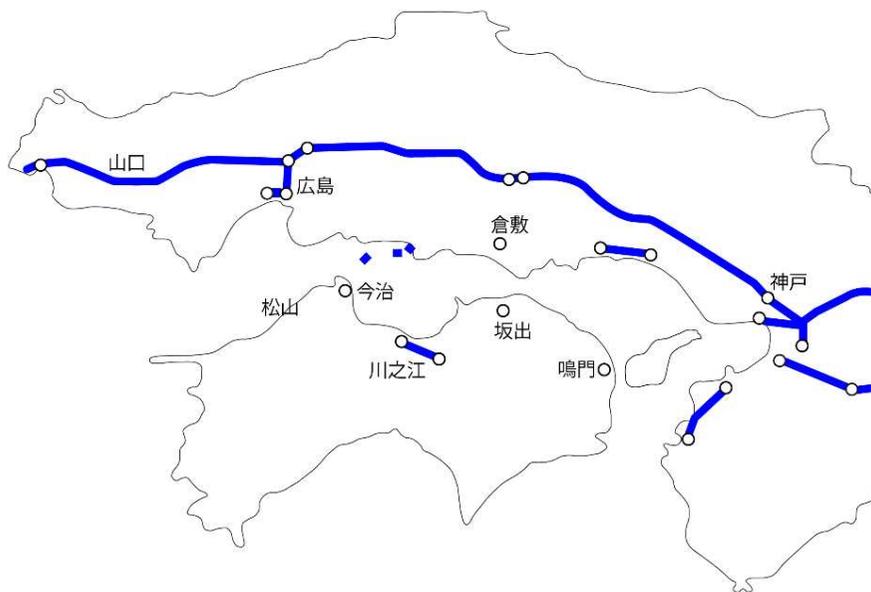
- 大鳴門橋開通前の昭和60年3月時点では、瀬戸内地域周辺の高速道路は中国道を除き、部分的に完成している状況でした。
- その後、本四高速道路を含め、本州側、四国側ともに、順次高速道路の整備が進められ、瀬戸内地域周辺では高速道路による広域交通ネットワークが形成されてきました。

昭和60年

【供用延長】

全国： 約3,600km

四国： 約10km

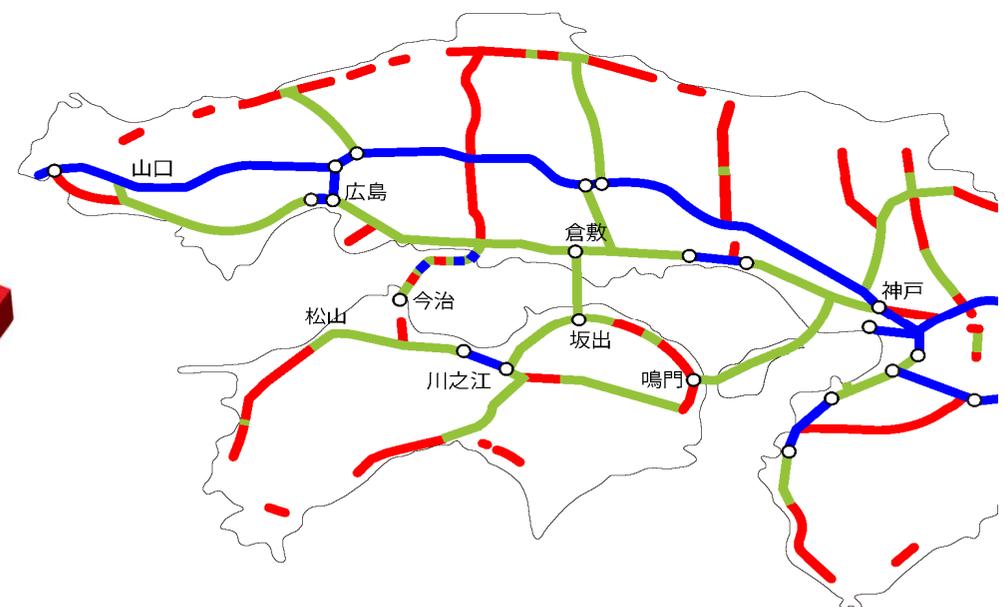


平成30年

【供用延長】

全国： 約11,600km

四国： 約600km



- ~昭和60年3月末の開通区間
- 昭和60年4月~平成11年5月末の開通区間
- 平成11年6月~平成30年3月末の開通区間

注：対象は高規格幹線道路

出典：「高規格幹線道路網図」(全国高速道路建設協議会)ほかをもとに作成

3時間圏域の変化

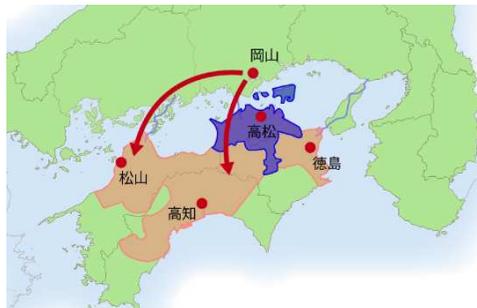
- 高速道路ネットワークの整備により、瀬戸内地域などの主要都市からの3時間圏域は大きく広がりました。
- 例えば、昭和60年当時では徳島市から3時間で到達できるのは淡路島まででしたが、現在では神戸・鳴門ルート、児島・坂出ルートを利用することにより、大阪府・兵庫県・岡山県の大部分に到達できるようになっています。

■各県庁所在都市からの3時間圏域の変化

【大阪市・神戸市 発】



【岡山市 発】



【広島市 発】



各県庁所在都市から3時間以内に到達できる本州側・四国側の市町村

昭和60年 3月
(大鳴門橋開通前)

平成30年 3月

【徳島市 発】



【高松市 発】



【松山市 発】



【高知市 発】



注：自動車での3時間圏域
出典：「道路時刻表」(道路整備促進期成同盟会全国協議会)、「全国フェリー・旅客船ガイド」(日刊海事通信社) ほかをもとに作成

■3時間圏域の面積と人口

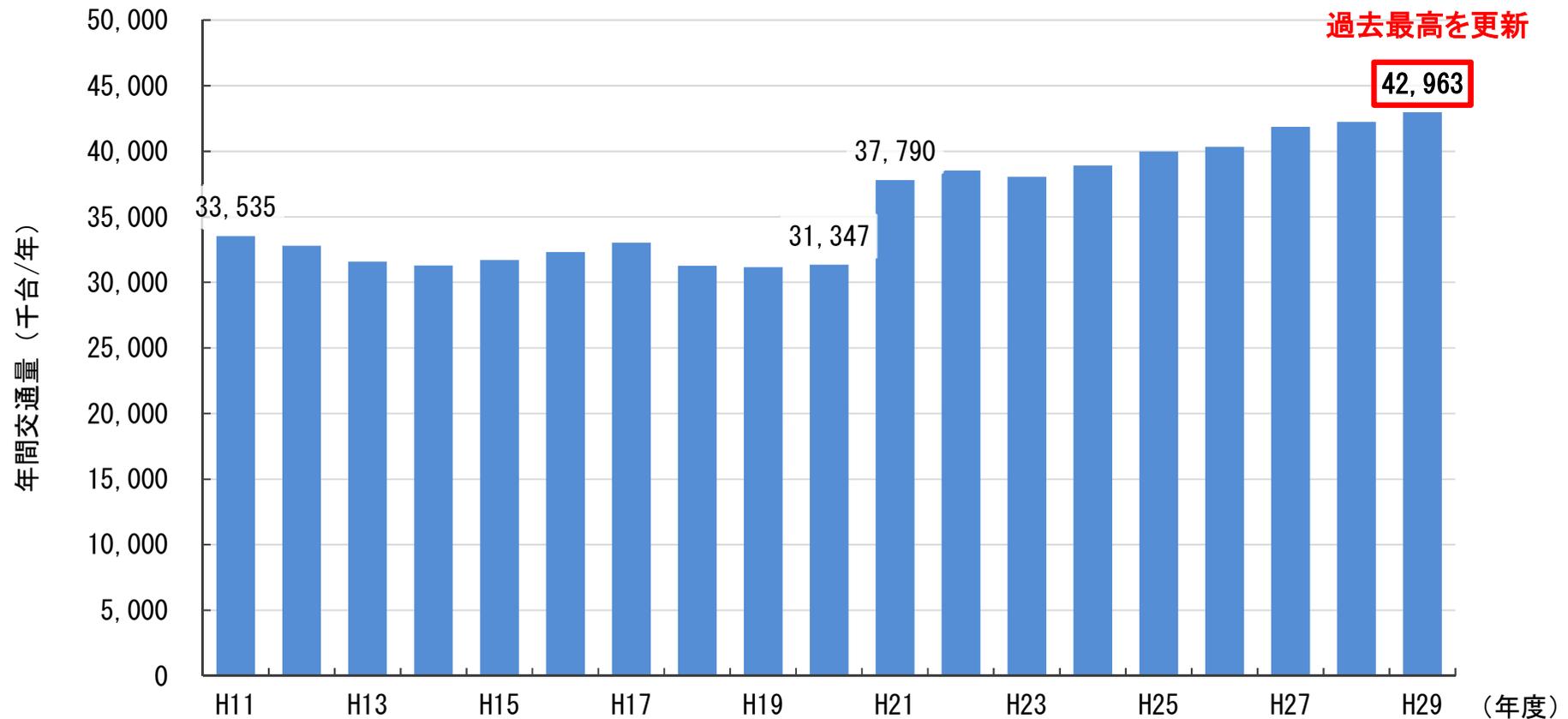
	昭和60年	平成30年	平成30年／昭和60年
圏域面積 (km ²)	6,027	41,783	約6.9倍
圏域人口 (万人)	311	2,675	約8.6倍

注：昭和60年は昭和60年3月(大鳴門橋開通前)時点、平成30年は平成30年3月時点

出典：国勢調査 より作成

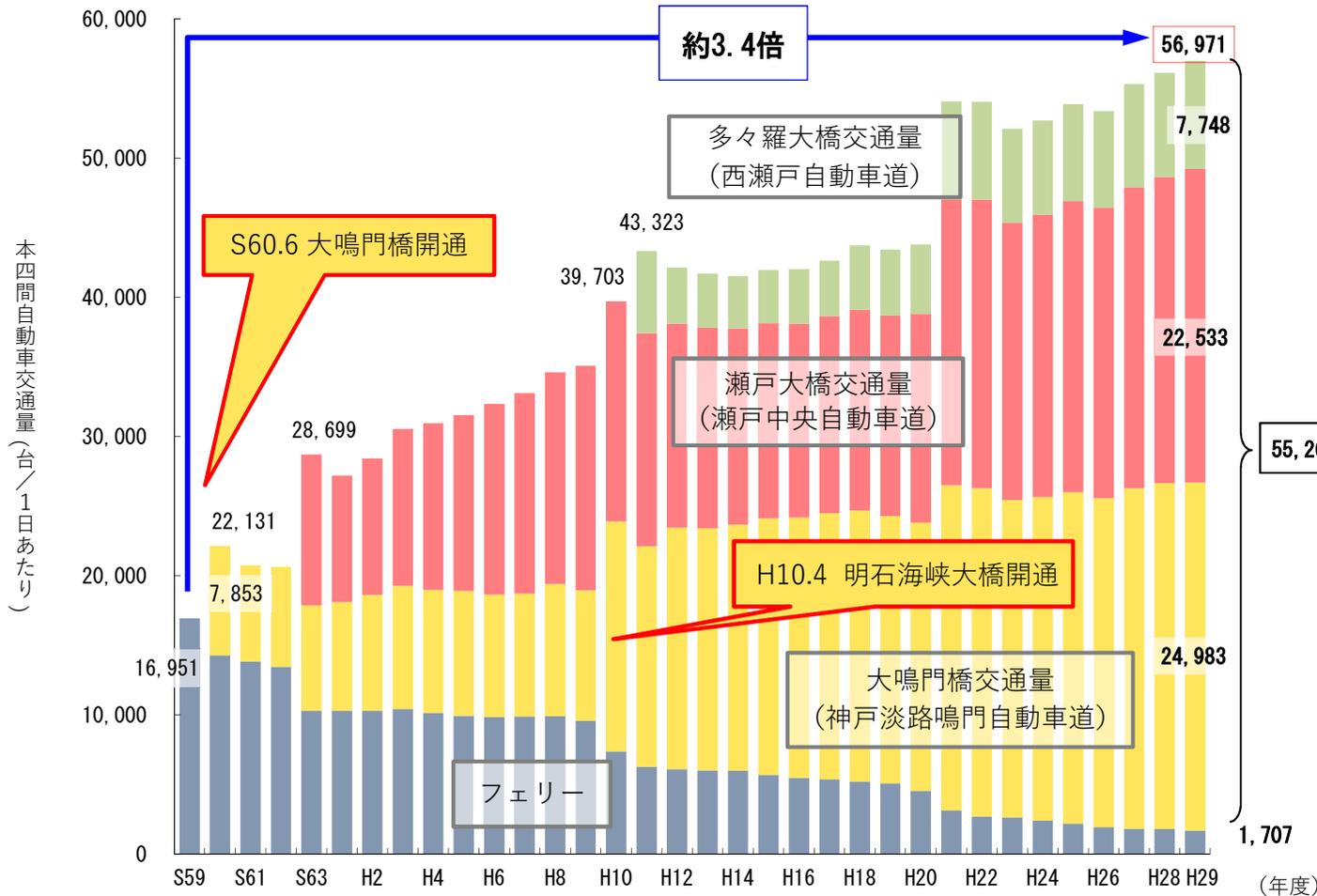
本四高速道路の利用台数の推移

- 本四高速道路の利用台数は、各種料金割引の導入があった平成21年度以降、着実に増加しています。
- 平成29年度には、約4,296万台（対前年度比+1.7%）と、過去最高を更新しました。

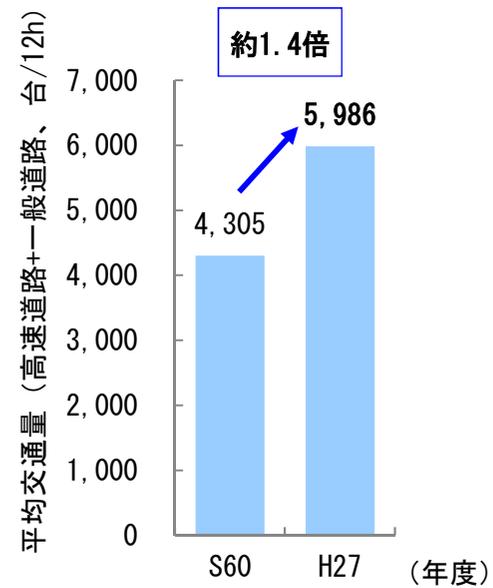


本州・四国間の自動車交通量の推移

- 本州・四国間の自動車交通量は、本四高速道路の開通により飛躍的に増大しました。
- 大鳴門橋開通前の昭和59年度と平成29年度とを比較すると、本州・四国間の自動車交通量は約3.4倍に増加しています。
- 全国の自動車交通量は、昭和60年度と平成27年度とを比較すると約1.4倍です。



＜参考＞
全国の自動車交通量



出典：JB本四高速資料、「四国における運輸の動き」(四国運輸局)より作成

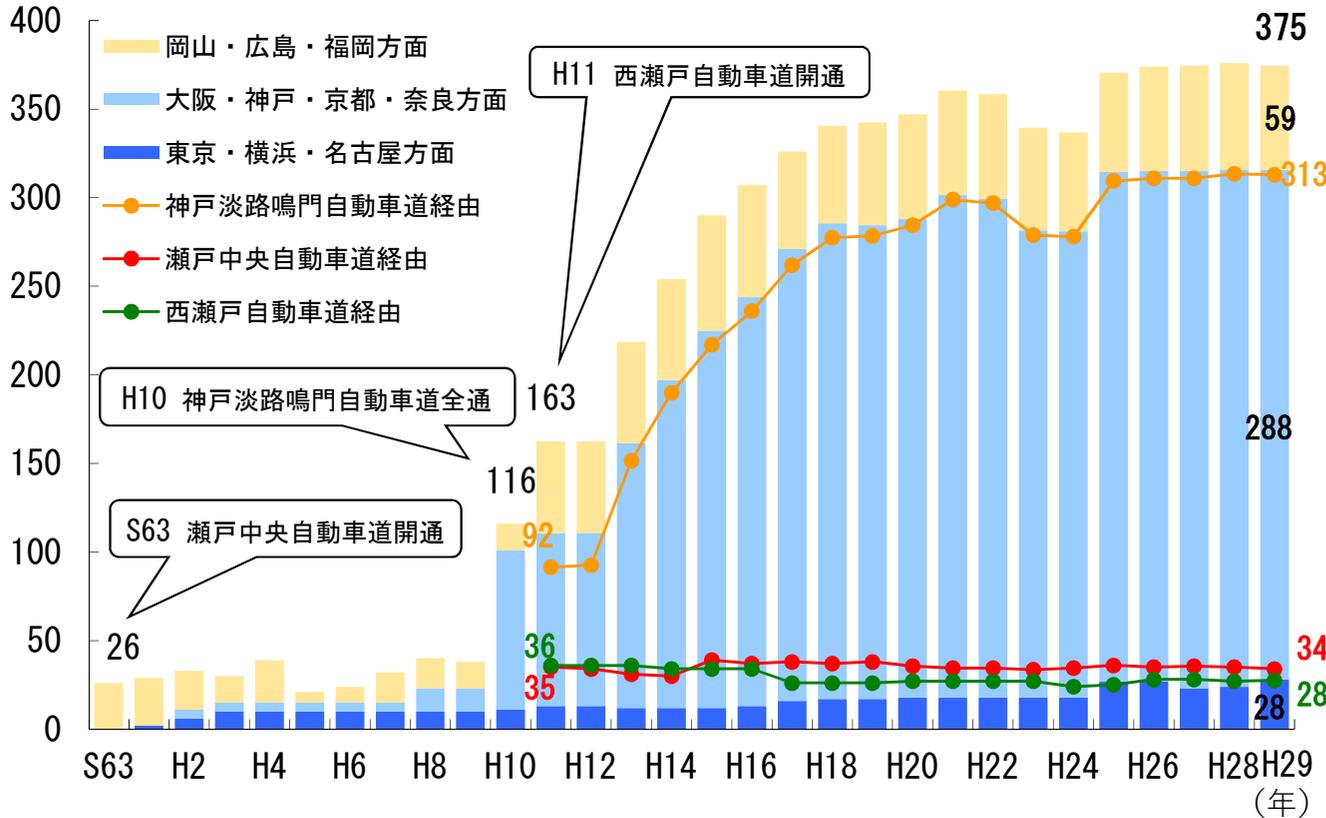
出典：「全国道路・街路交通情勢調査」(国土交通省)より作成

本州・四国間的高速バス便数の推移

- 本州・四国間を結ぶ高速バスは、平成10年の神戸淡路鳴門自動車道全通以降、京阪神と四国を結ぶ路線を中心に大幅に増加し、平成29年では1日往復375便となっています。
- 神戸淡路鳴門自動車道を経由する便は、往復313便/日で、全体の約83%を占めています。

■ 本州・四国間的高速バス便数の推移

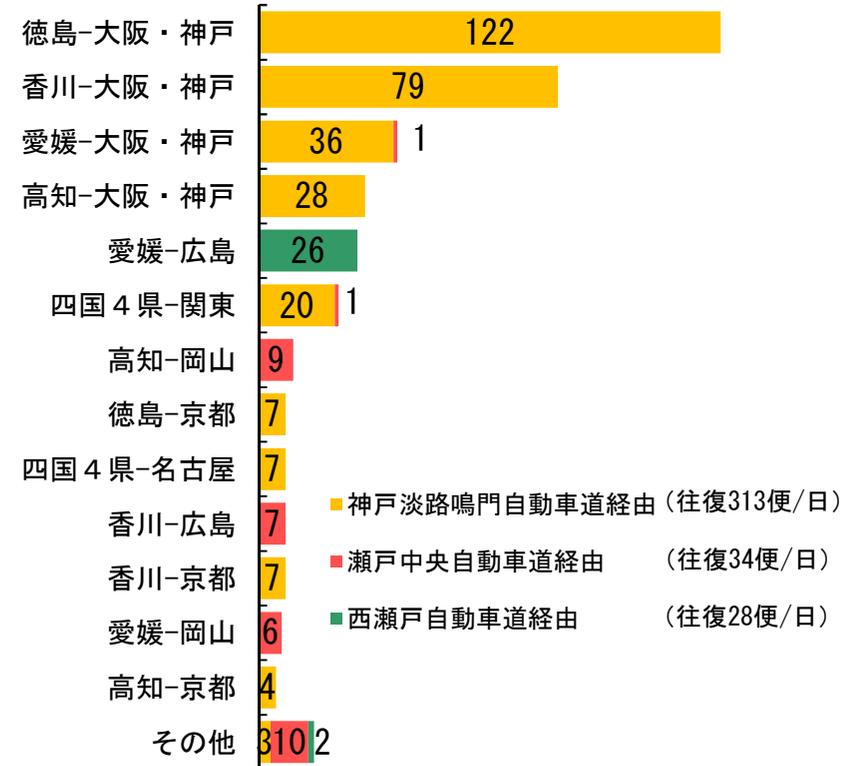
(往復便数/日)



出典: 「四国運輸局業務要覧」(四国運輸局)、運行会社へのヒアリング より作成

■ 本州・四国間的高速バス 発着地別便数 (平成29年)

(往復便数/日)



注1: 平成29年9月時点

注2: 「その他」…8路線・往復15便/日

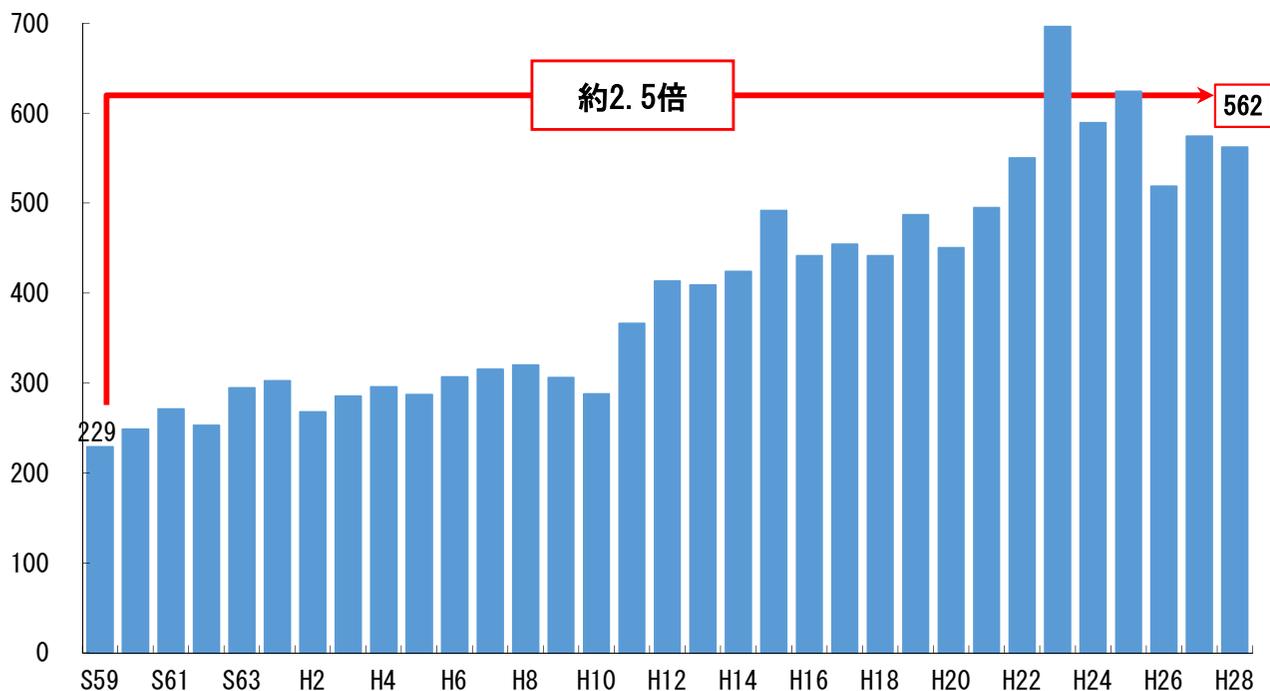
出典: 「四国運輸局業務要覧」(四国運輸局)、運行会社へのヒアリング より作成

全国と四国間の自動車貨物流動量の推移

- 全国と四国間の自動車貨物流動量は、昭和59年度と平成28年度で比較すると、約2.5倍に増加しました。
- 同期間における全国のブロック間の自動車貨物流動量は、約1.2倍です。

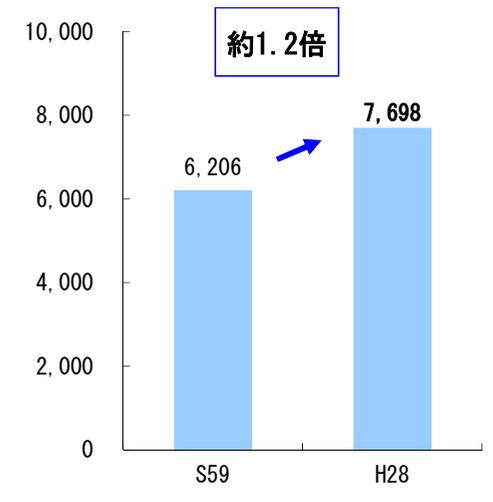
◆四国発着の自動車貨物流動量の推移

(10万トン)



<参考>
全国のブロック間の
自動車貨物流動量

(10万トン)

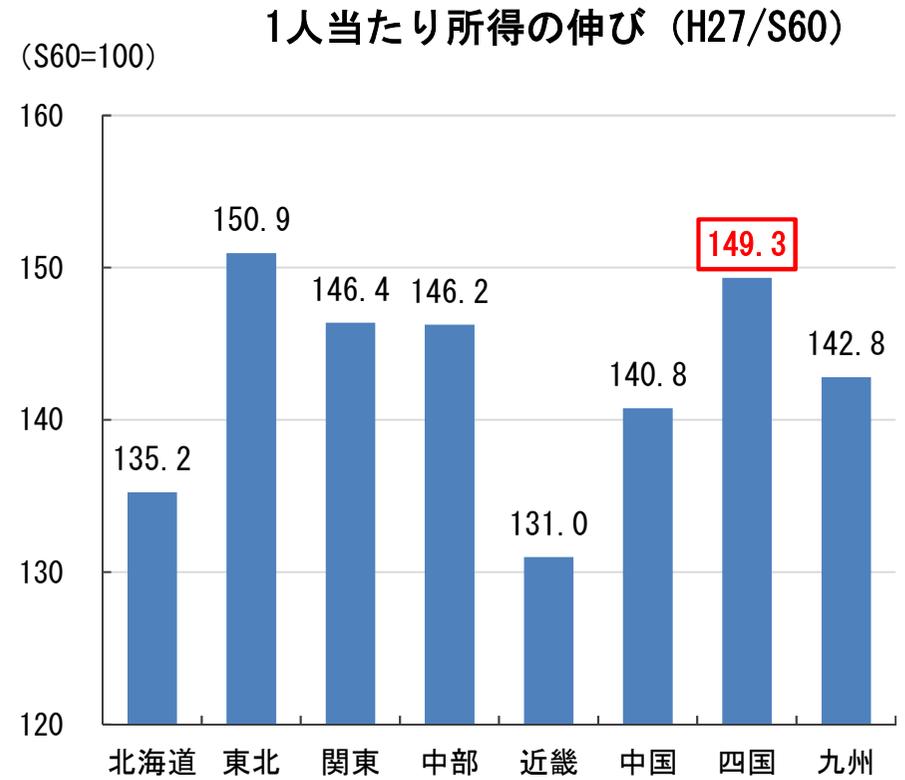
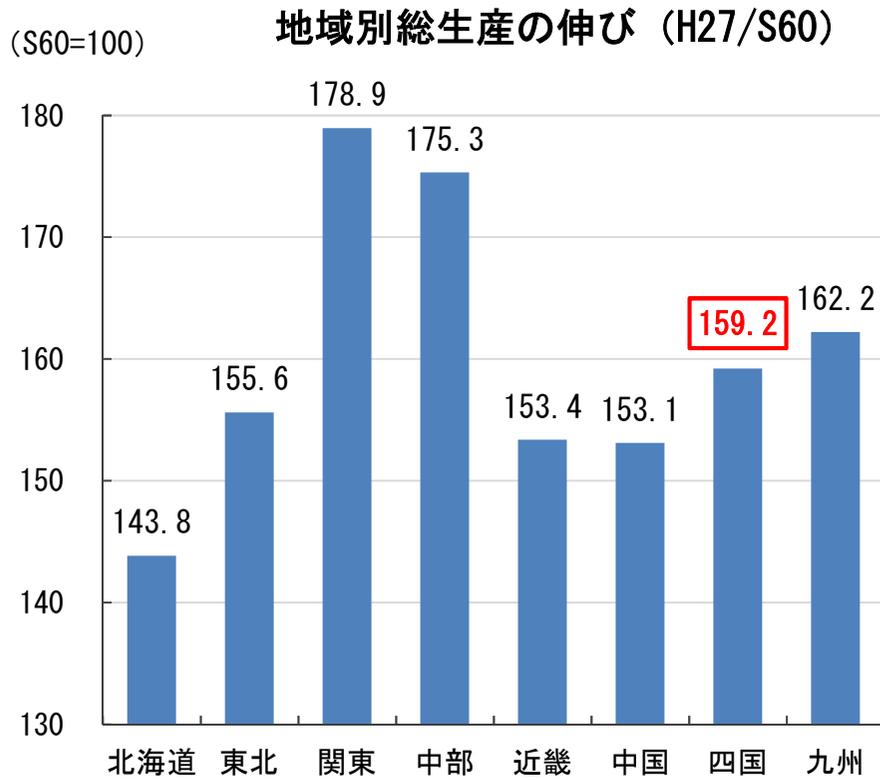


注：地域内の流動は含まない
出典：「貨物・旅客地域流動調査」(国土交通省) より作成

注：地域内の流動は含まない
出典：「貨物・旅客地域流動調査」(国土交通省) より作成

四国地域の生産性向上

- 四国における総生産の伸びは、関東、中部、九州とともに全国上位グループとなっています。
- 1人当たり所得の伸びでは、四国が2番目に高い地域となっています。

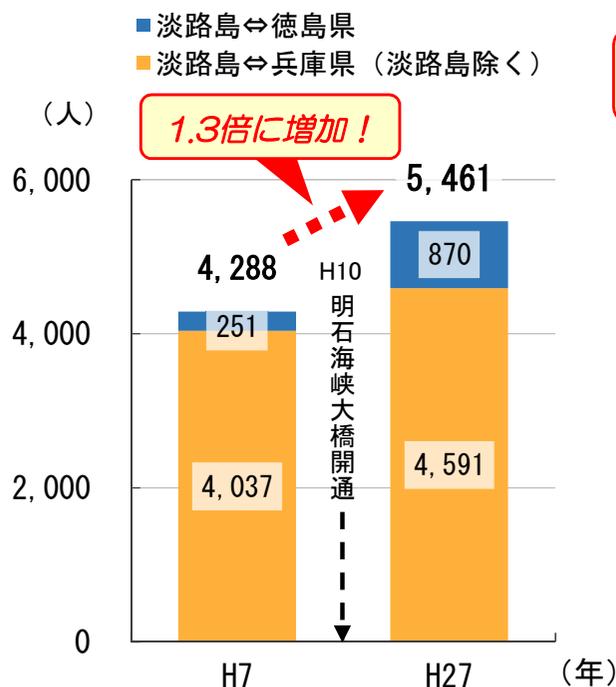


注1: 九州は沖縄を含む
 注2: 名目値で比較
 出典: 「県民経済計算」(内閣府)より作成

淡路島発着の高速バスで神戸・三宮が身近に

- 明石海峡大橋開通後、淡路島と神戸方面とを結ぶ高速バスの運行が始まりました。
- 淡路島発着の高速バスは、便数の豊富さと、神戸・三宮や舞子で鉄道駅に直結しているアクセスの良さが特徴です。
- 現在では、淡路島と神戸・徳島の間での通勤・通学は定着し、就業者数・通学者数は20年間で約1.3倍に増加しました。

■ 淡路島と兵庫県・徳島県間の就業者・通学者数の変化



出典：「国勢調査」(総務省統計局)より作成
注：「15歳以上就業者数」「15歳以上通学者数」の合計値



通勤・通学時間帯の風景
(神戸淡路鳴門自動車道・舞子バスストップ)

◆ 舞子バスストップ

ピーク時には、1時間当たり25便以上の高速バスが淡路島・四国から到着します。

JR舞子・山陽舞子公園の鉄道駅と直結している利便性が特徴です。

高速バス（淡路島～神戸間）利用者の声

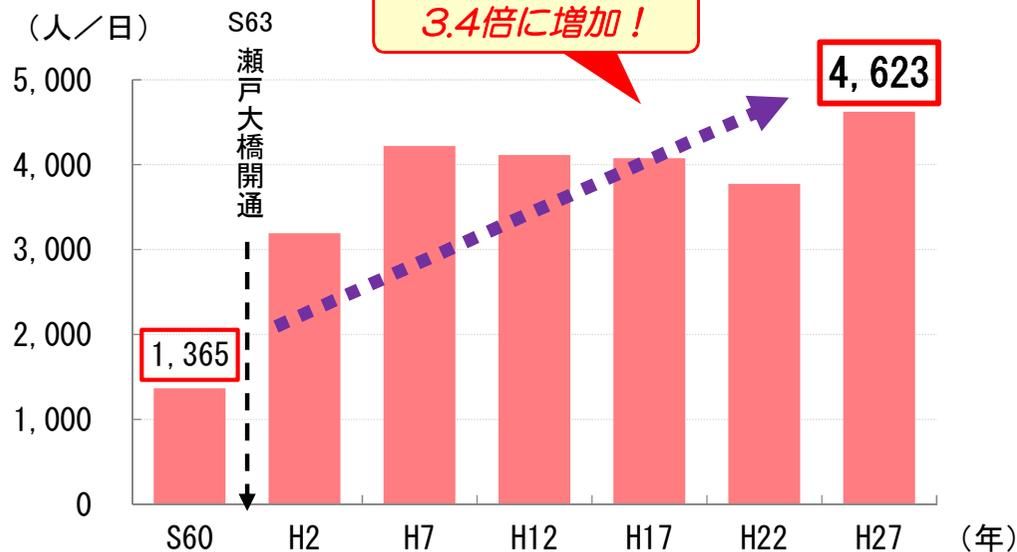
毎月数回、淡路島外での仕事の営業活動のほか、趣味のスポーツ観戦や旅行のため利用しています。舞子バスストップで下車すれば鉄道駅に直結しており、舞子から神戸・三宮までは電車で約20分です。



岡山県と香川県間の通勤・通学が定着

- 瀬戸内海を隔てる岡山県と香川県の間では、瀬戸大橋を利用した通勤・通学が拡大し、就業者・通学者数は瀬戸大橋開通前の約3.4倍に増加しました。
- 岡山大学では四国地方出身者、香川大学では近畿・中国地方出身者の割合がそれぞれ増加しています。

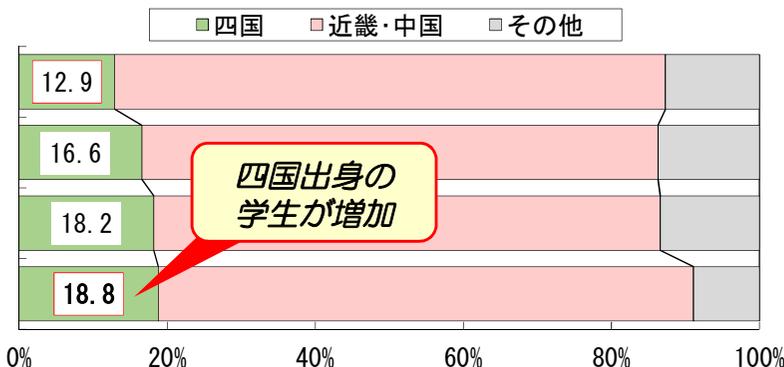
■岡山県と香川県間の就業者・通学者数の推移



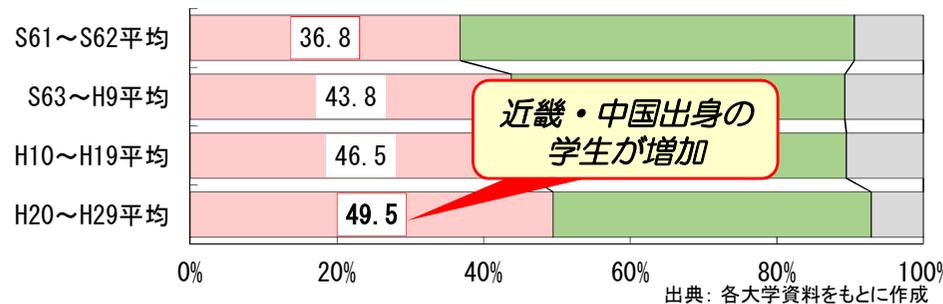
出典: 「国勢調査」(総務省統計局)より作成
注: 「15歳以上就業者数」「15歳以上通学者数」の合計値

■岡山大学・香川大学 入学者出身地の変化

岡山大学



香川大学



岡山県・香川県間を通学する大学生の声

(高松市在住 岡山大・文学部4年 女性)

- 高松市内の自宅から岡山大学に通っています。瀬戸大橋線は始発が早く、終電は遅いので不便は感じません。卒業後は地元で働きたいと思い、香川県内の企業へ就職が決まっています。



(高松市在住 岡山大・教育学部3年 男性)

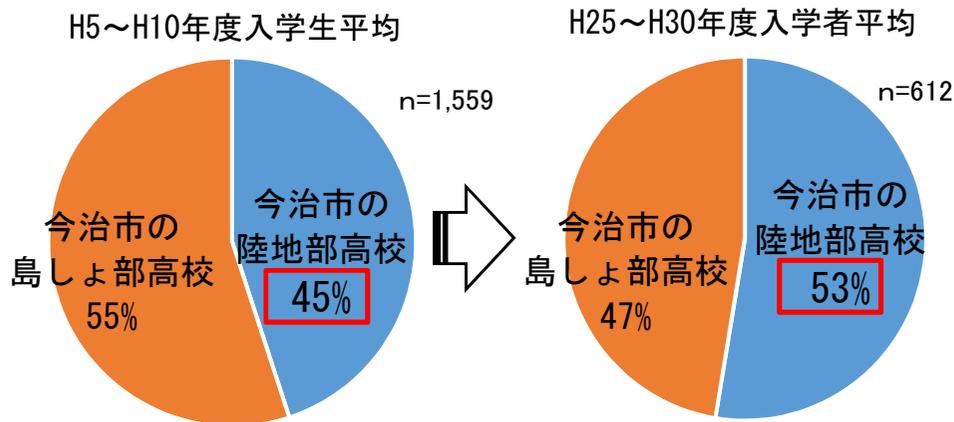
- 軟式野球部での部活動に力を入れており、朝7時からの練習には瀬戸大橋線の始発に乗って、ほぼ皆勤です。その甲斐あって平成29年春のリーグ戦で優勝して全国大会に出場し、ベスト4に進出できました。



しまなみ海道島しょ部からの通学

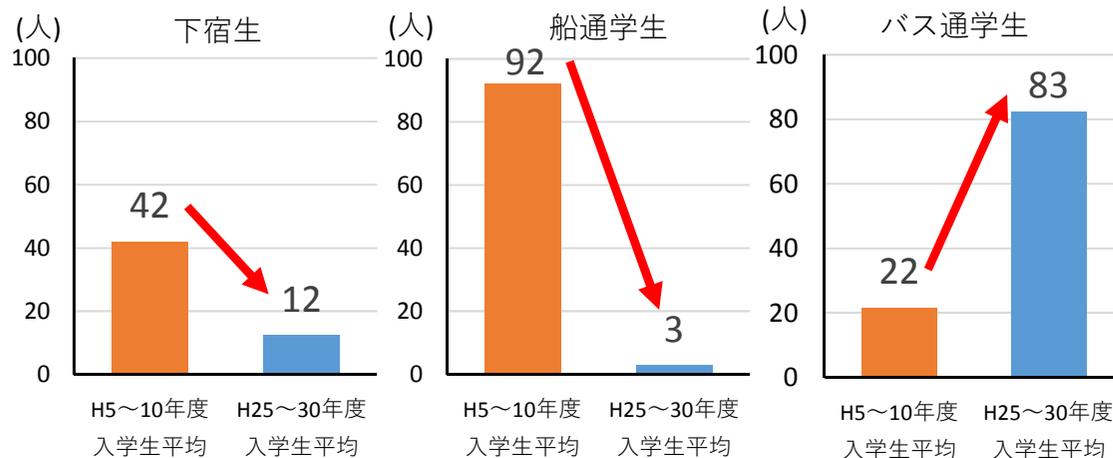
- 今治市の島しょ部（大三島・伯方島・大島）では、少子化が顕著で、高校の分校化や統廃合が進んでいます。
- 島しょ部の中学校出身者の進学先をみると、今治市の陸地部の高校へ進学する割合が、しまなみ海道開通前は約45%ですが、近年は約53%に上昇しています。
- 以前は島しょ部から陸地部の高校へ進学するには、フェリーで通学するか下宿する必要がありましたが、現在は橋があるので、バス等での通学が可能になっています。

■島しょ部の中学校出身者の進学高校の変化



注：島しょ部は、大三島・伯方島・大島
 出典：今治市内の県立高等学校の学校要覧をもとに作成

■陸地部の高校の下宿生と船・バス通学生の推移



出典：今治市内の県立高等学校(陸地部)の学校要覧をもとに作成



島しょ部からバスでの通学が可能！



路線バス(大三島島内バス停)

今治市教育委員会の話



橋ができたことで、バス通学が可能になり下宿するケースは圧倒的に減っています。バスが20時台までであるので、部活動で帰りが遅い生徒も通学可能です。大三島から3年間バス通学すれば、市内中心部での下宿に比べ、金銭面での負担は3割ほど軽くなっています。

しまなみ海道島しょ部への移住

- 人口が昭和50年と比べ約40%減少しているしまなみ海道島しょ部において、官民による移住支援の取り組みが積極的です。
- 尾道市では移住に関する情報が集約された専用のポータルサイトを開設し、住居や就業などの情報発信に取り組んでおり、また、大三島を中心に移住をサポートするNPO法人が支援した移住者は、平成23年からの累計135人、89%と高い定着率です。
- 移住者が開設した飲食店・民宿等に、サイクリストや観光客が訪れるなど地域活性化にもつながっています。

■ 尾道移住ポータルサイト

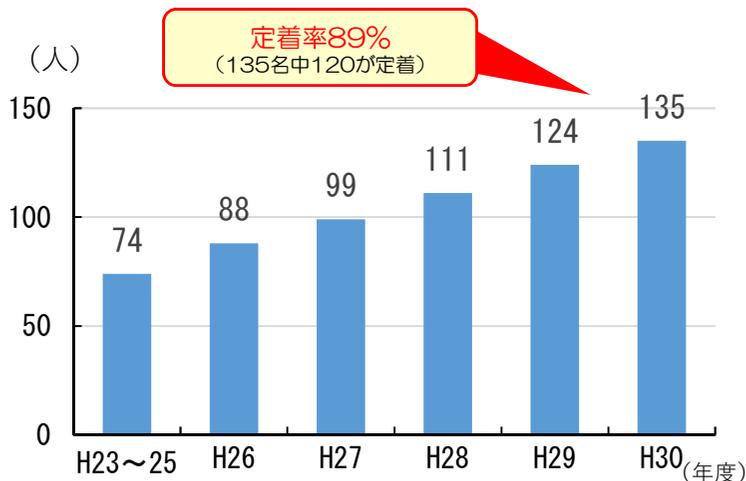


くらしの情報のほか、移住のステップやインタビュー記事、暮らしに役立つ情報等をサイトで紹介



移住された方が開設した古民家カフェ(生口島)

■ 民間(NPO法人)による支援実績(移住者累計)



注：平成30年度は11月まで
出典：NPO法人しまなみアイランドスピリットより



移住された方々の声



自分がやりたかった「サイクル」「音楽」「カフェ」という要素を統合できる場所として古民家カフェを開業しました。近隣の方の応援もあり、子どもにとっていい環境です。橋でつながっているので市街地にもすぐ行けて便利です。



移住4年目で念願のブリュワリーを開業しました。来店約7割は観光客の方々です。麦やホップなどの原材料は本州の専門商社から仕入れていますが、橋のおかげで原材料が届かないという心配はありません。



移住された方が開設したブリュワリー(大三島)



地域を盛り上げるため、地元商店街でU・Iターンの店主も共同して新たなイベントを実施(生口島)

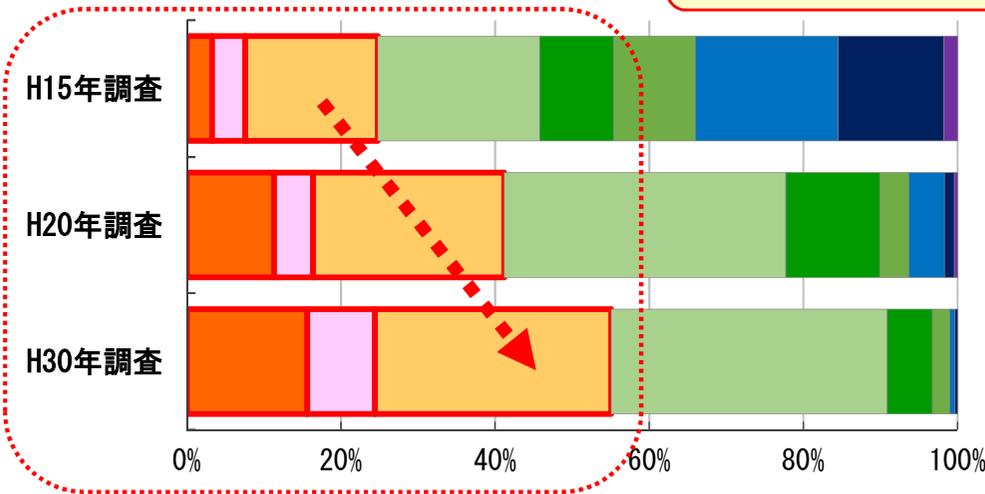
住民の日常生活を支えるしまなみ海道

- しまなみ海道沿線在住の方を対象にしたアンケートでは、しまなみ海道を「週1～2回」以上利用する方の割合が全体の半分以上を占め、利用頻度が年々増加しています。
- ショッピングセンター・大型店などでの買い物や通院の利用が多く、島々の住民にとっての生活道路として大きな役割を果たしています。

■アンケート結果

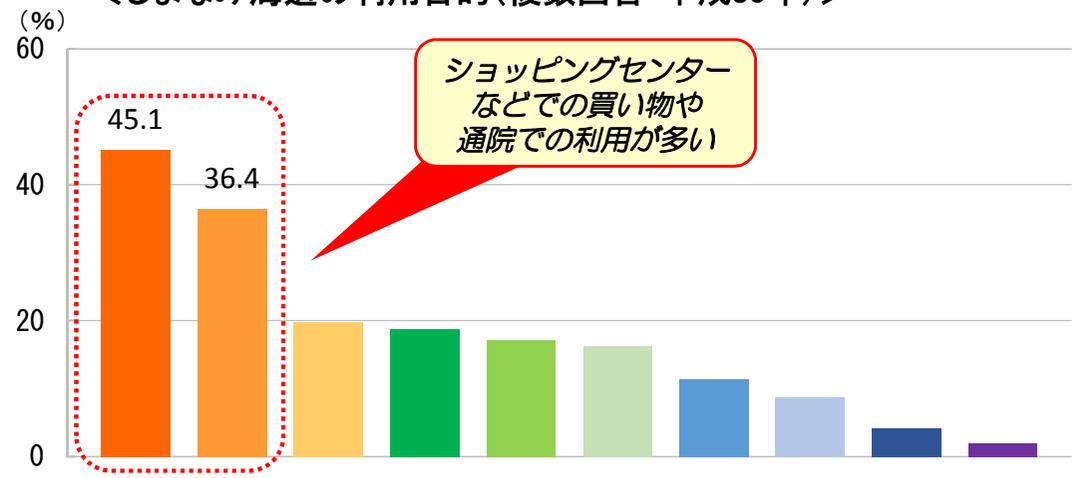
＜しまなみ海道の利用頻度の変化＞

「週1～2回」以上の利用頻度が上昇



- ほぼ毎日
- 週3回以上
- 週1～2回
- 月2～3回
- 月1回
- 半年で2～3回
- 年間2～3回
- 年間1回以下
- その他

＜しまなみ海道の利用目的(複数回答・平成30年)＞



ショッピングセンターなどでの買い物や通院での利用が多い

- ショッピングセンター・大型店などでの買い物
- 通院
- 仕事上の用事(営業、出張等)
- 通勤・通学
- 食品など日常の買物
- 親族・友人等訪問、帰省
- レジャー・観光・旅行
- 食事
- 習い事、趣味
- その他

住民の声

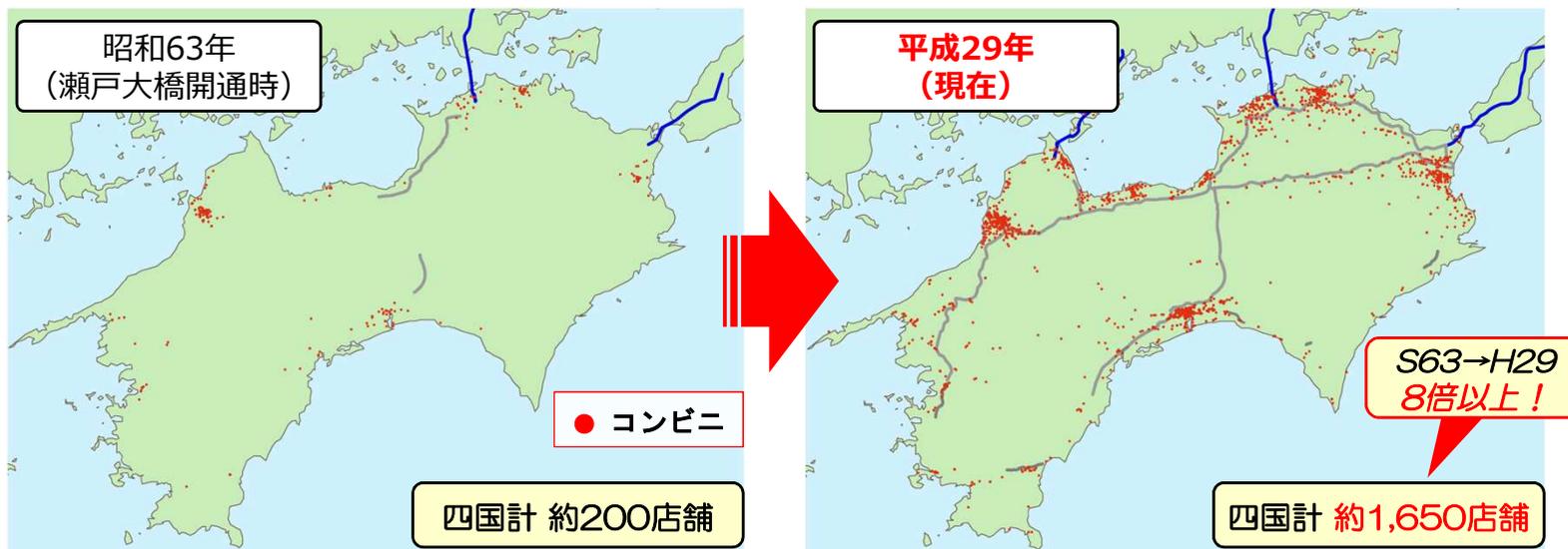
しまなみ海道のメリットとして、最も実感されているのが「時間を気にせず移動できる」ということです。高齢者は「急病などの際の安心感が増した」、若年層は「ショッピングに行けて楽しい」と実感しているようです。

出典：いよぎん地域経済研究センター調べ
 (調査対象)しまなみ海道沿線 愛媛県側在住者
 (有効回答数) 平成15年:215、平成20年:239、平成30年:308

高速道路ネットワークの拡充に伴い、四国に「コンビニ」が展開

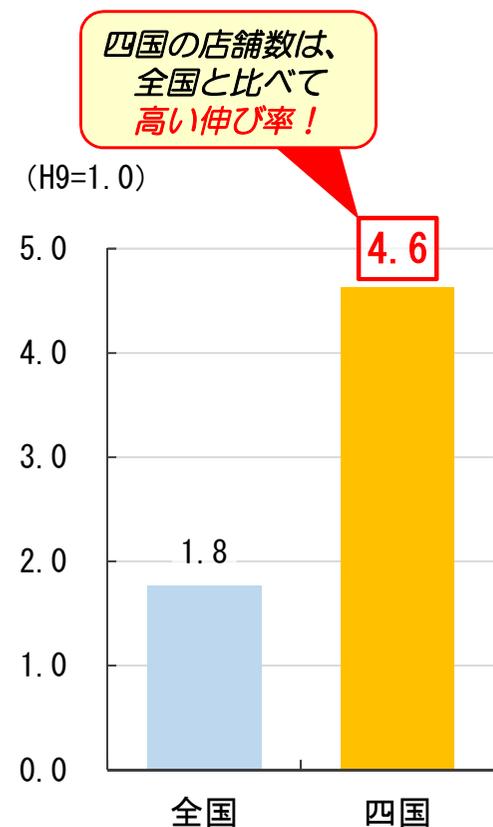
- 昭和63年当時、四国内の「コンビニ」は各県庁所在都市を中心に开店されているのみでした。
- 本四高速道路をはじめとした高速道路ネットワークの拡充に伴い、流通形態が確立されたことから出店が進んできました。
- 四国の「コンビニ」店舗数は、瀬戸大橋開通から約30年で、8倍以上に増加しています。

■ 四国 コンビニ出店状況の変化



出典：各年次の電話帳をもとに作成
注：電話帳における分類が「コンビニエンスストア」であるものを抽出

■ コンビニ店舗数 伸び率の比較 (H9→H29)

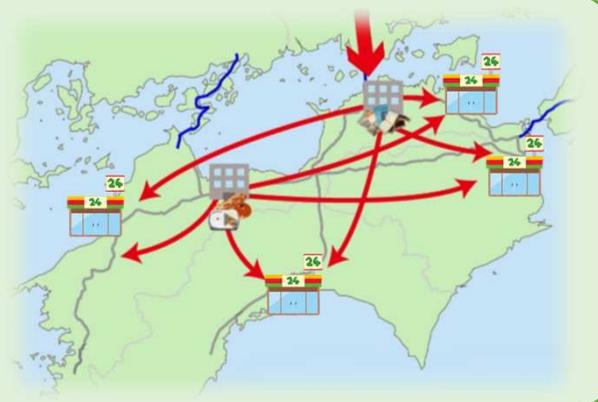


出典：「商業動態統計」（経済産業省）より作成



大手コンビニ 四国地区マネジャーの声

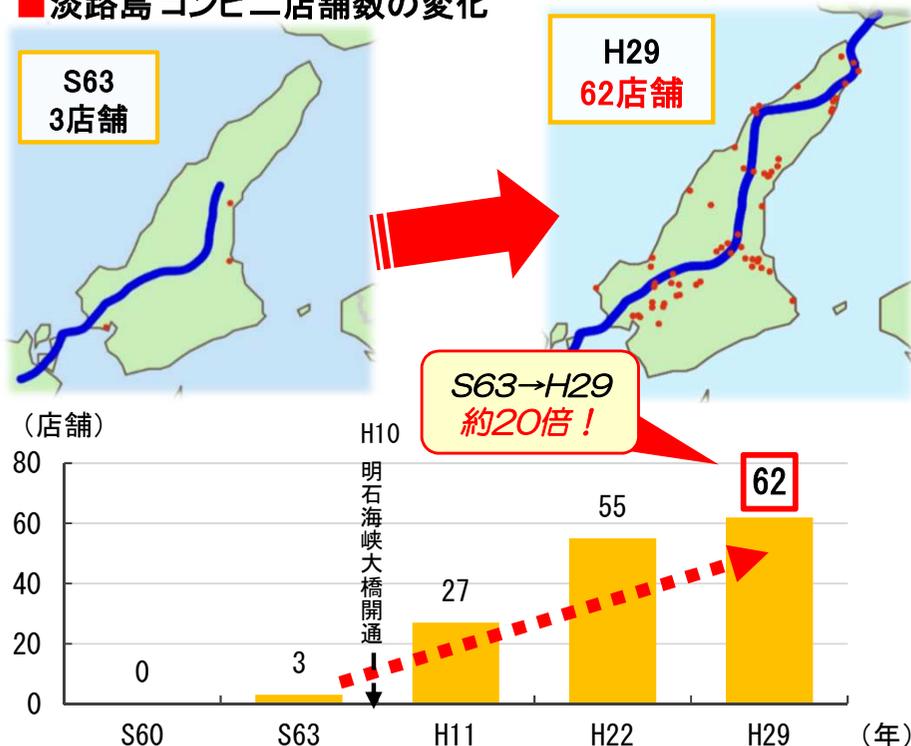
「橋」がなければ、本州側から商品を届けることができず出店が困難でした。お弁当や惣菜類等は四国内の工場で製造しています。雑貨やドリンク等の商品は、本州から瀬戸大橋経由で坂出市の物流拠点に一度集約し、四国全域に配送しています。物流拠点については、本州からアクセスが容易な坂出市に設けています。



淡路島・しまなみ海道の島しょ部で「コンビニ」が飛躍的に増加

- 本四高速道路の開通に伴い、淡路島、しまなみ海道沿線の島しょ部で「コンビニ」の出店が進んでいます。
- 「コンビニ」店舗数は、淡路島では明石海峡大橋開通前の約20倍、しまなみ海道沿線島しょ部では20店舗以上に増加しました。
- 島しょ部への店舗展開には、商品配送や担当者による店舗訪問等の面で、本四高速道路がなければ難しかったといえます。

■淡路島コンビニ店舗数の変化



出典：各年次の電話帳をもとに作成 注：電話帳における分類が「コンビニエンスストア」であるものを抽出

■しまなみ海道沿線島しょ部のコンビニ店舗数



平成9年に初出店し、
現在では20店舗以上！

島名		店舗数
広島県	向島	6
	因島	9
	生口島	3
愛媛県	大三島	1
	伯方島	1
	大島	2
合計		22

(平成29年2月現在)

住民の声



コンビニは、ちょっとした買物や、料金の支払いのために使っています。以前は早朝や深夜に開店しているお店はほとんどありませんでしたが、今はコンビニがあるのでとても便利になりました。

大手コンビニ 営業担当マネジャーの声

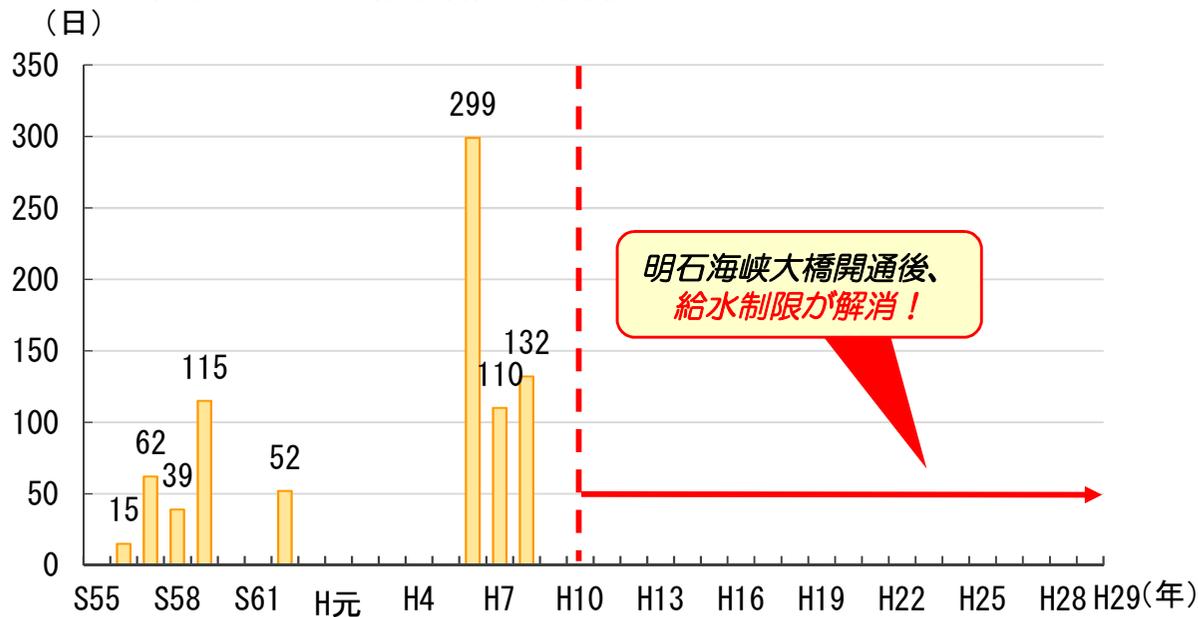


しまなみ海道開通前の平成9年に大島に初出店し、当初は船で配送していました。
愛媛県本土からの商品の配送や、担当者による週2回の店舗訪問等を考えると、「橋」がなければしまなみ海道沿線でのさらなる出店は難しかったものと思います。

送水管の設置により、淡路島の給水制限が解消

- 淡路島は温暖・多照・少雨の気候で、地形・地勢的に水の確保が難しいことから、かつては渇水が頻繁に発生する地域でした。
- 平成10年の開通と同時に、明石海峡大橋には送水管が設置され、本州側から淡路島への送水が開始されました。
- 現在では、淡路島内での給水制限は解消されています。

■ 淡路島内における給水制限(年間最大日数)



出典：淡路広域水道企業団資料、兵庫県資料をもとに作成

■ 淡路島への送水



明石海峡大橋に設置されている2本の送水管

淡路島内の配水量のうち約26%が本州側から供給

【平成29年度実績】

淡路島内年間配水量 (千 m^3)	
	うち本州からの配水量
17,708	{ 4,675 }

出典：兵庫県企業庁水道課提供資料、淡路広域水道企業団資料をもとに作成



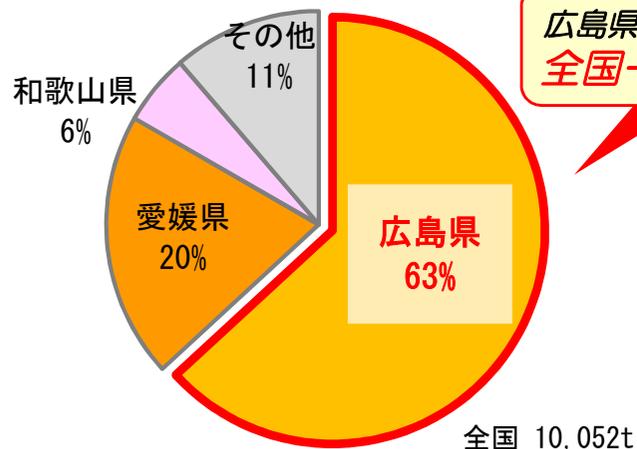
住民の声

かつては給水制限が多く、水道が自由に使えず、あらかじめお風呂に水を貯めるなどしていました。明石海峡大橋が出来てからは、そういったこともなくなり、水不足で困ることはありません。

広島県産「レモン」6次産業化で地域活性化

- 広島県尾道市の生口島をはじめとするしまなみ海道の島しょ部は、温暖で強風が少なく「レモン」の栽培に適した環境です。
- 防カビ剤を使用せず皮まで食べられる「安全・新鮮」な品質や、貯蔵・包装技術の開発による一年中の出荷により、収穫量は増加傾向で、全国一となっています。
- 近年では、「レモン」を加工した商品が島内外各地で販売されるなど、6次産業化による地域活性化にもつながっています。

■ 国産「レモン」の収穫量シェア(平成27年)



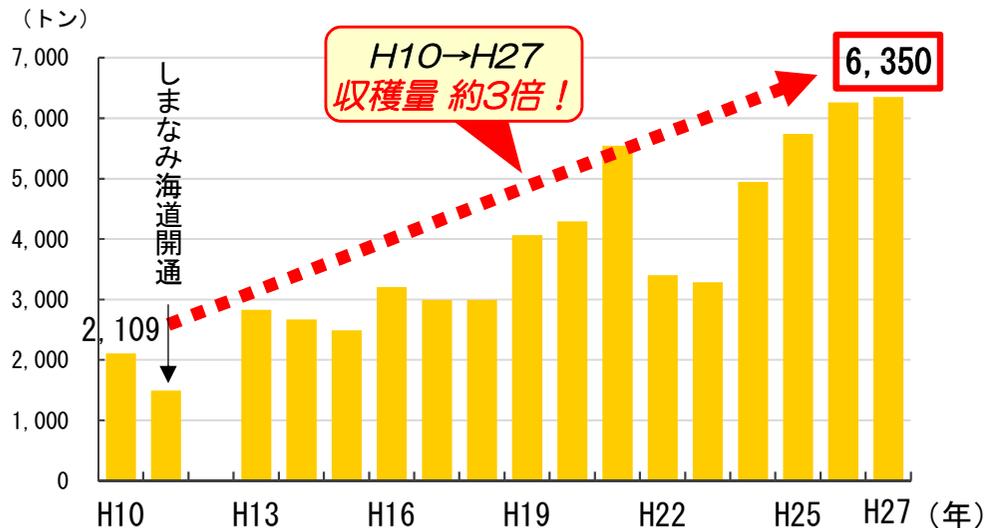
広島県産「レモン」は
全国一の収穫量！



生口島レモン農園

出典：「特産果樹生産動態等調査」（農林水産省）より作成

■ 広島県産「レモン」収穫量の推移



※H12はデータなし 出典：「特産果樹生産動態等調査」（農林水産省）より作成

お菓子メーカー（生口島）の声

生口島で収穫されたレモンのお菓子を島内で生産・加工し、各地に販売しています。

「橋」がなければ、集荷時間制約やコストが問題となり、島内で生産すること自体が難しいです。

近年では、販売量が増加、好調な売上を背景に約50人の雇用確保につながりました。



スタッフによる作業風景

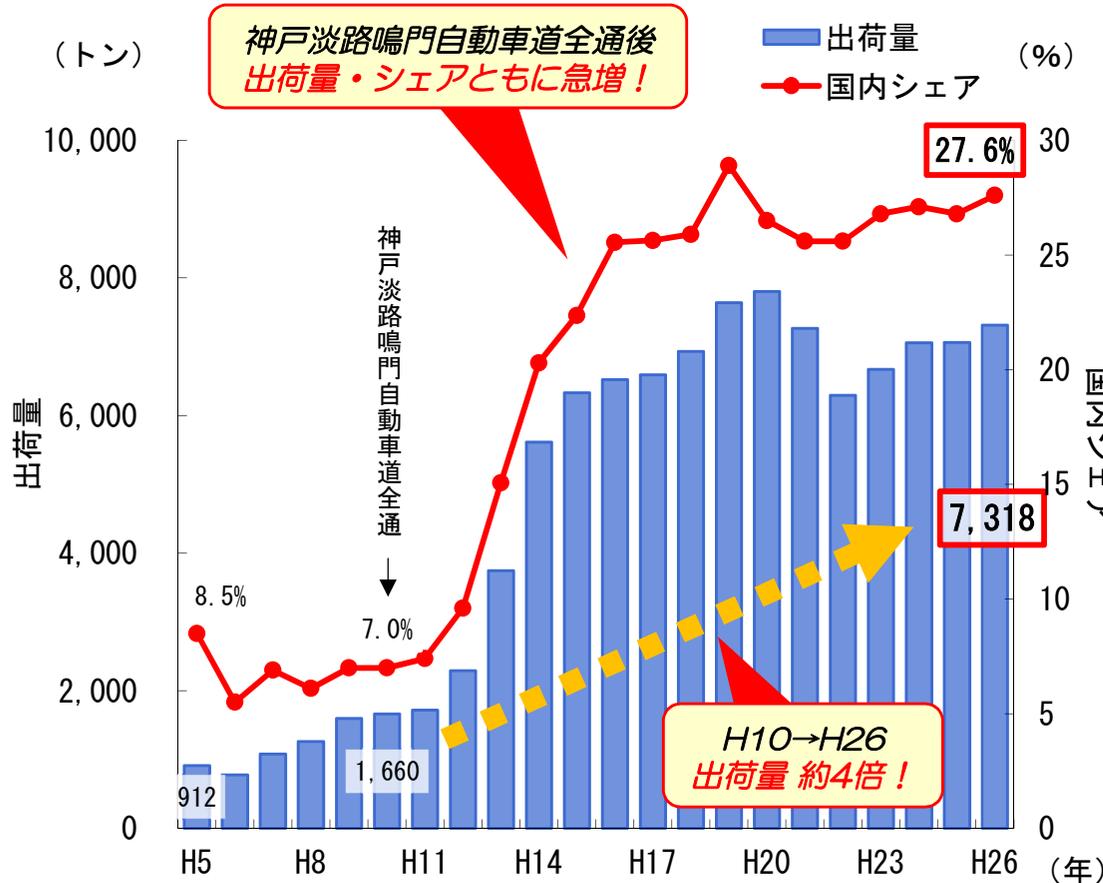


「レモン」加工商品

徳島県産「地鶏」のシェア拡大

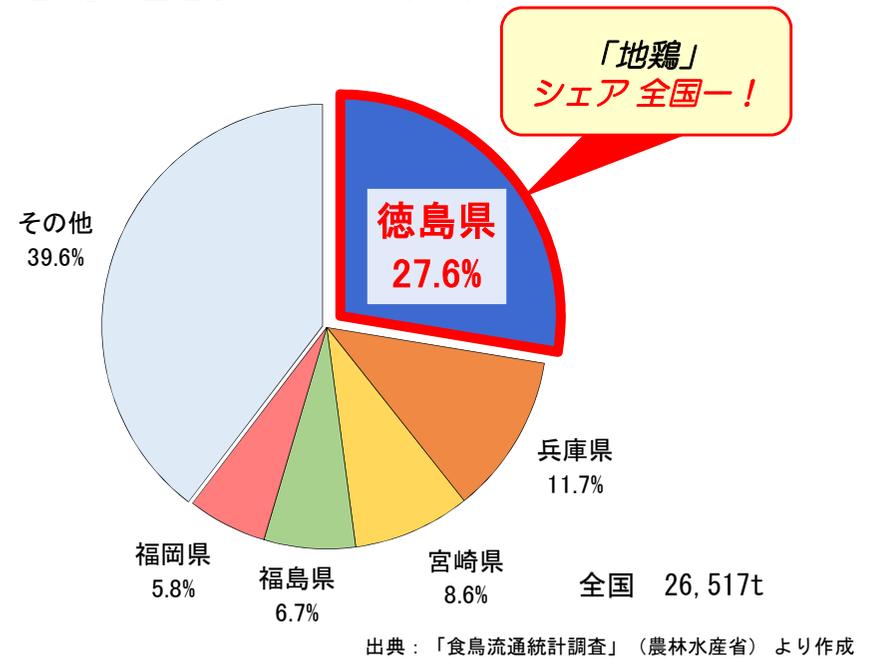
- 古くから養鶏産業が活発な徳島県の「阿波尾鶏」は、自然に恵まれた環境で80日以上かけて丹念に飼育された「地鶏」です。
- 徳島県や生産者一体の取り組みにより、出荷生産体制の整備や消費拡大対策が行われ、全国に販路を拡大してきました。
- 「地鶏」の産地別シェアでは、平成14年に全国一となり、平成26年には27.6%を占めています。

■ 徳島県産「地鶏」の出荷量と国内シェア



出典：「食鳥流通統計調査」（農林水産省）より作成

■ 「地鶏」の産地別シェア(平成26年)



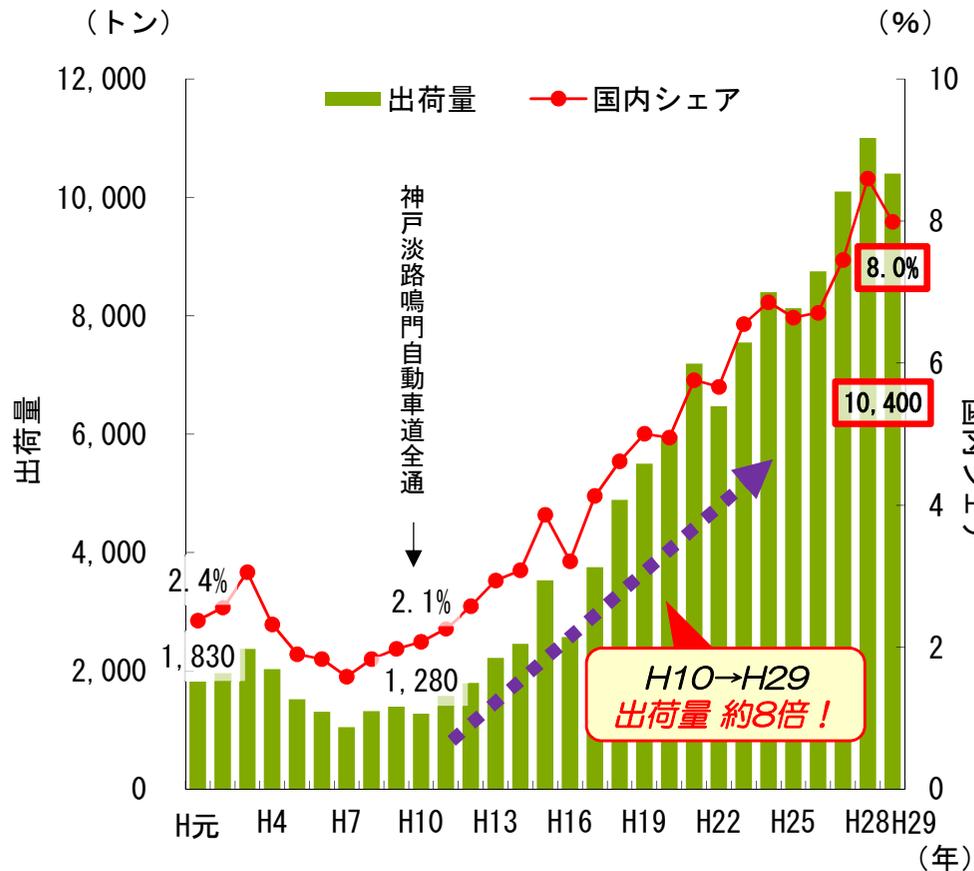
徳島県産地鶏
「阿波尾鶏」

写真提供：徳島県

香川県産「ブロッコリー」が東京市場でシェアを確保

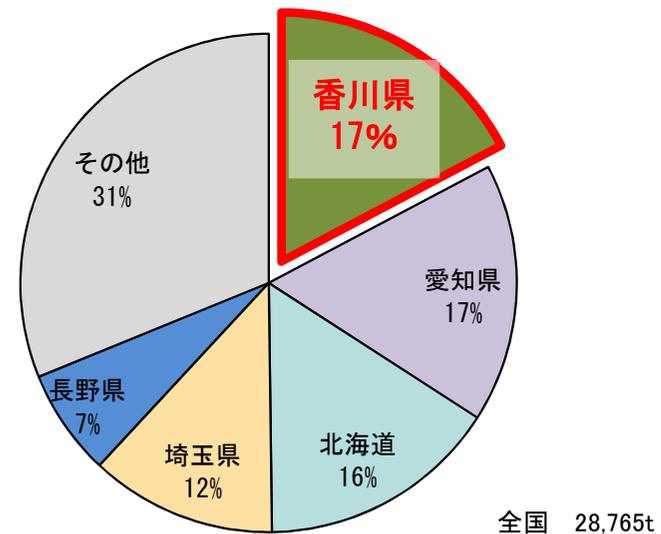
- 香川県産「ブロッコリー」は、葉付き・氷詰め出荷等によって鮮度を保つ工夫を行い、高速道路を使って遠方まで出荷されています。
- 多くの品種を巧みに組み合わせ、作業や収穫が重ならない工夫をすることで10月から6月までの長期出荷を可能としてきました。
- 東京市場では平成29年の全国シェアでは約17%（約4,974トン）を占め、日本一です。

■香川県産「ブロッコリー」の全国出荷量と国内シェア



出典：「野菜生産出荷統計」（農林水産省）より作成

■東京都中央卸売市場「ブロッコリー」取扱量の全国シェア(平成29年)



出典：「東京都中央卸売市場年報」より作成

◆香川県産「ブロッコリー」の出荷エリア

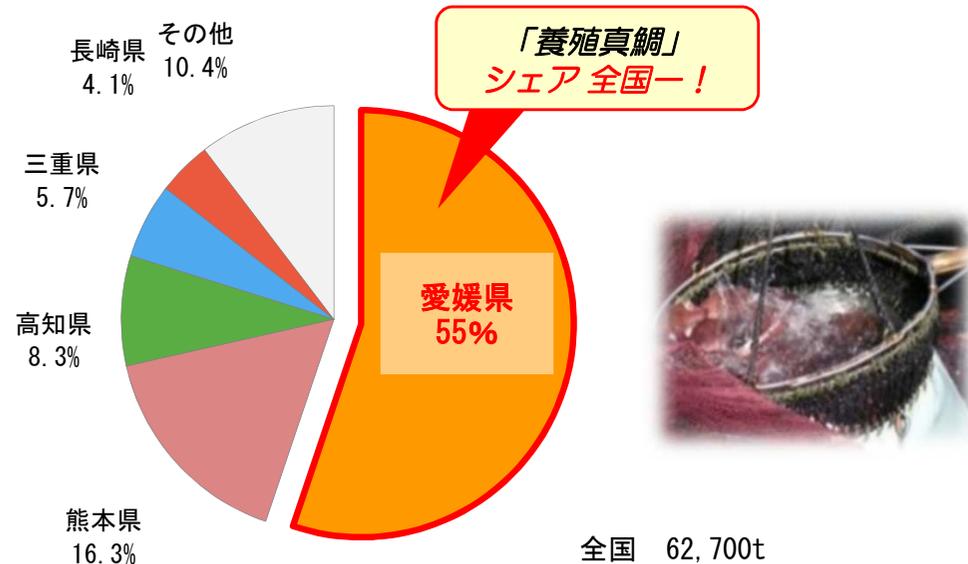
東北5%、京浜55%、京阪神20%、中国・四国20%の割合で出荷され、多くは四国外で消費されています。

出典：JA香川県HP

愛媛県産「真鯛」が高い鮮度で大都市の市場へ出荷

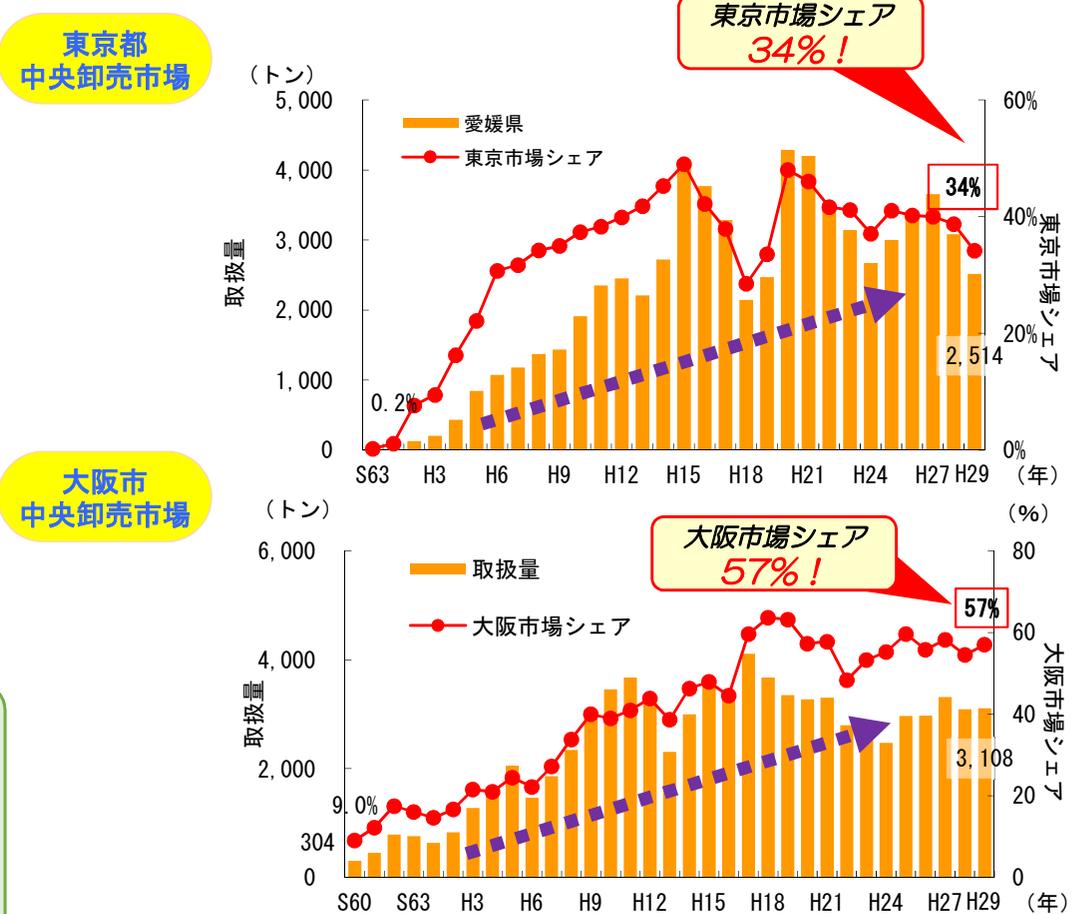
- 瀬戸内海や宇和海の豊かな海に恵まれた愛媛県では養殖業が活発で、愛媛県産「養殖真鯛」は生産量全国一です。
- 高速道路ネットワークの拡充によって鮮度の高い真鯛がより遠方へ出荷できるようになったことから、東京・大阪市場での取扱量を順調に伸ばしてきました。
- 新たな養殖魚の研究や、愛媛県特産の柑橘を飼料に用いた養殖魚の生産など、需要拡大に向けた取り組みも進んでいます。

■「養殖真鯛」の全国シェア(平成29年)



出典：「漁業・養殖業生産統計」(農林水産省)より作成

■東京都・大阪市中央卸売市場における愛媛県産「真鯛」の取扱量とシェア



出典：「大阪市中央卸売市場年報(注1)」「東京都中央卸売市場年報(注2)」より作成
 注1：平成13年以降は、「養殖まだい」と「天然まだい」の合計値。本場市場と東部市場の合計値。
 注2：「養殖まだい」と「天然まだい」の合計値。



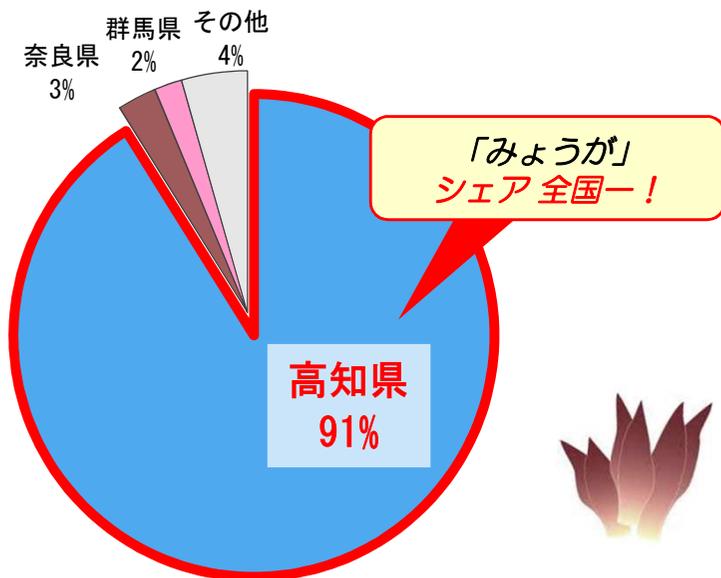
鮮魚販売会社 担当者の声

関東方面の市場に輸送する場合、架橋前は、競り前々日の夜に荷積みをする必要がありました。架橋によって5~6時間短縮されたため、競り前日の朝に荷積みし、出荷すればよくなりました。

高知県産「みょうが」が大都市の市場を独占

- 「みょうが」は温暖で降水量の多い気候が栽培に適しており、ハウスと露地栽培で一年中出荷している高知県がシェア全国一です。
- 鮮度保持を追求してきた高知県では、青果物の新たな包装法を独自開発するなどの工夫がなされてきました。
- 高速道路ネットワークの拡充により、新鮮な「みょうが」がトラック輸送で頻繁に出荷できるようになったこと等も背景に、東京・大阪市場でのシェアを独占するまでに成長しています。

■「みょうが」の全国シェア(平成28年)



全国 5,188t

出典：「地域特産野菜生産状況調査」（農林水産省）より作成

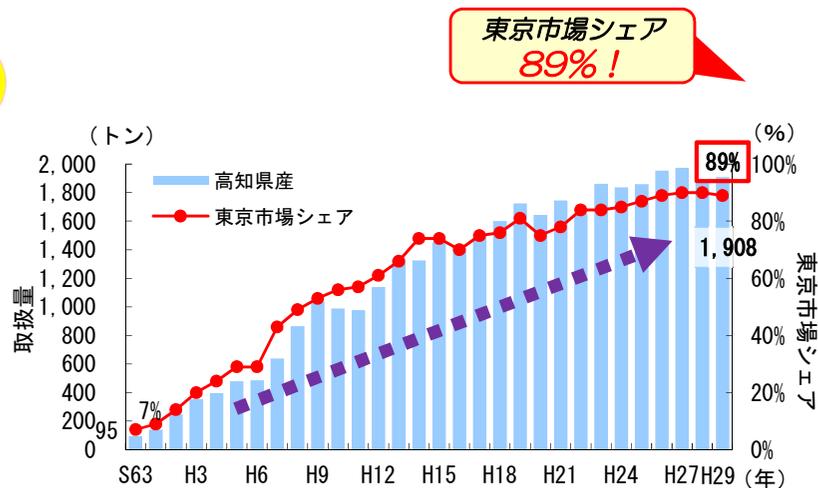
みょうが生産者の声



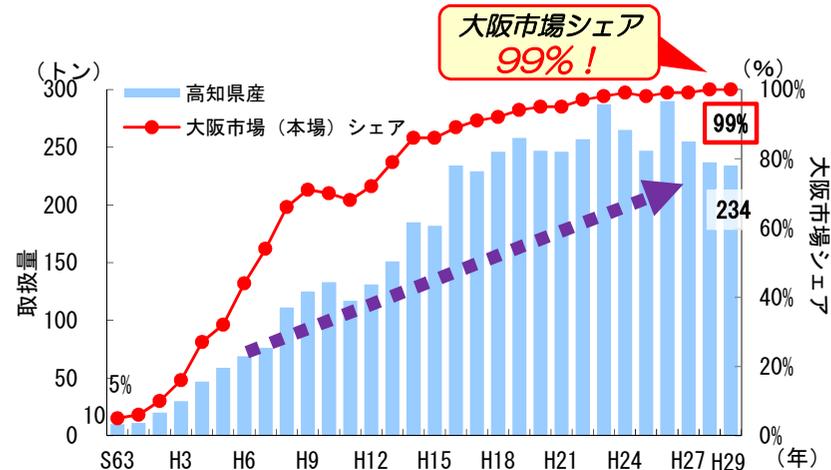
「みょうが」は鮮度が重要であるため、以前は空輸でした。トラックで運べるようになってほぼ365日出荷でき、「橋」があることで短時間で出荷できるため、鮮度の面でも大いに役立っています。

■東京都・大阪中央卸売市場における高知県産「みょうが」の取扱量とシェア

東京都中央卸売市場



大阪市中央卸売市場



出典：「大阪市中央卸売市場年報」「東京都中央卸売市場年報」より作成

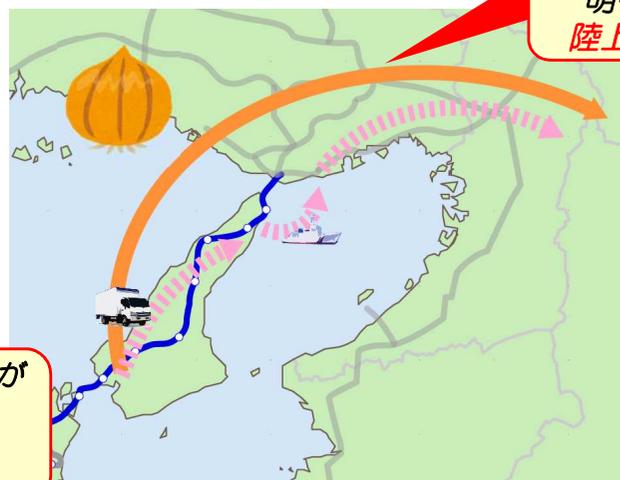
淡路島産「玉ねぎ」は東京市場で高値で取引

- 明治・大正時代から栽培が始まった淡路島産「玉ねぎ」は、瀬戸内の温暖な気候で成育し、「甘さ・みずみずしさ」が特徴です。
- 品種改良や技術開発による品質向上、大都市圏へのPRによってブランドを築いてきました。
- 出荷量が増加する7月には、東京市場でのシェアは「兵庫県産」が1位です。

■兵庫県における「玉ねぎ」の出荷量産地別シェア(H27)



■淡路島からの出荷ルート

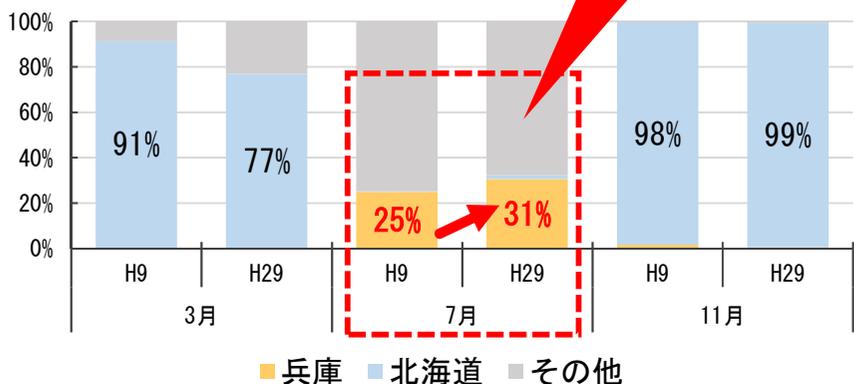


玉ねぎ生産者の声

海上輸送から陸上輸送に変わり、出荷時間は短縮されました。

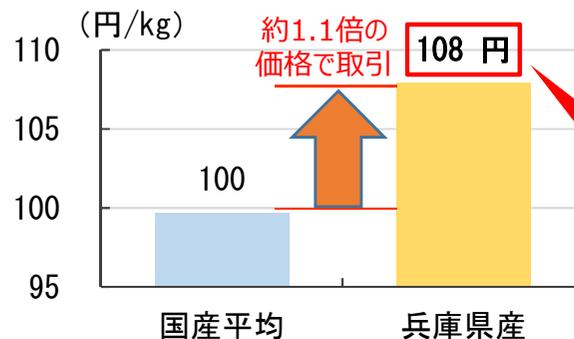
島内に直売所も増えてきていますが、橋ができて訪問者が増えた影響があると思います。また、直接販売してほしいという島外からの声が増えています。

■東京市場における「玉ねぎ」の取扱量月別産地別シェア(H9・H29比較)



東京市場では、「兵庫県産」が7月のシェア全国1位！明石海峡大橋開通前よりもシェア上昇！

■東京市場における兵庫県産「玉ねぎ」の平均価格(平成29年)



兵庫県産玉ねぎはブランド力が高く高値で取引

徳島県のLED産業集積に貢献

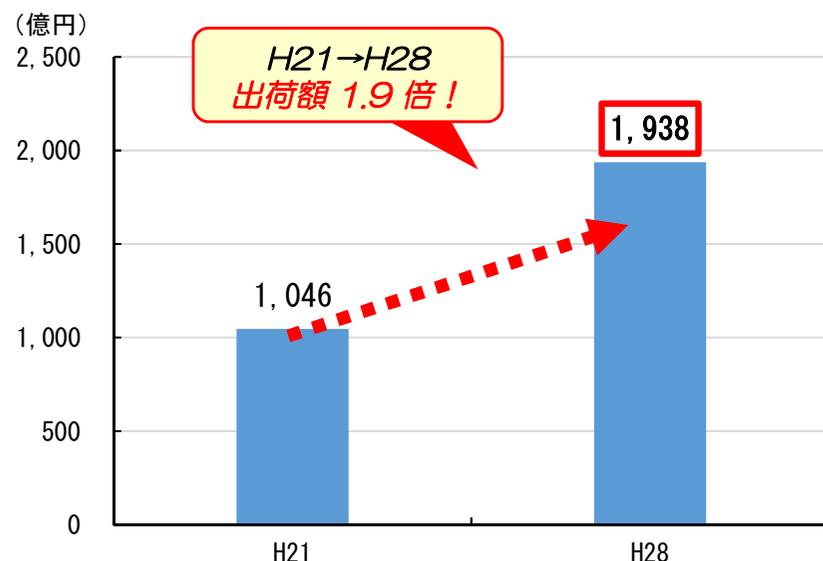
- 徳島県には、高輝度青色LEDを世界で初めて製品化した企業をはじめ、100社以上のLED関連企業が集積しています。
- 「LEDバレイ構想」を推進する徳島県では、LEDに関する研究開発の拠点形成、高度技術者の育成に取り組んできました。
- 徳島県のLED出荷額は年々増加し、平成28年の全国シェアでは約64%（約1,938億円）を占め、日本一です。

■ LED出荷額 全国シェア (平成28年)



出典：「工業統計調査」（経済産業省）より作成

■ 徳島県 LED出荷額の推移



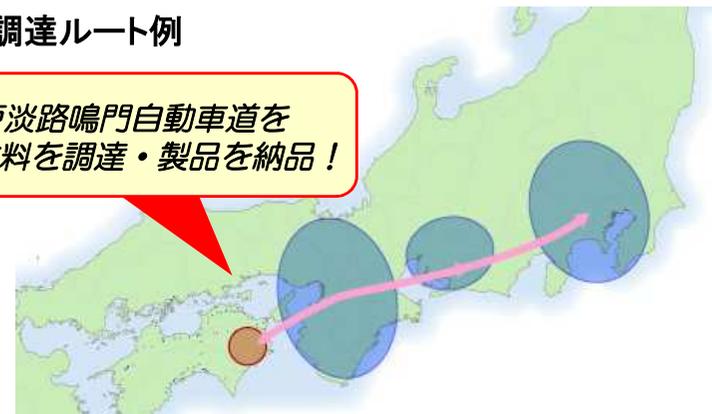
出典：「工業統計調査」（経済産業省）より作成

LED関連製品メーカー 営業担当者の声

事業活動では、少量多頻度の配送・調達を行っています。原材料や製品の調達・納品の多くで本四高速道路を利用しており、特に関西方面に向けては、リードタイムの短縮化と物流の安定に貢献しているといえます。

■ 配送・調達ルート例

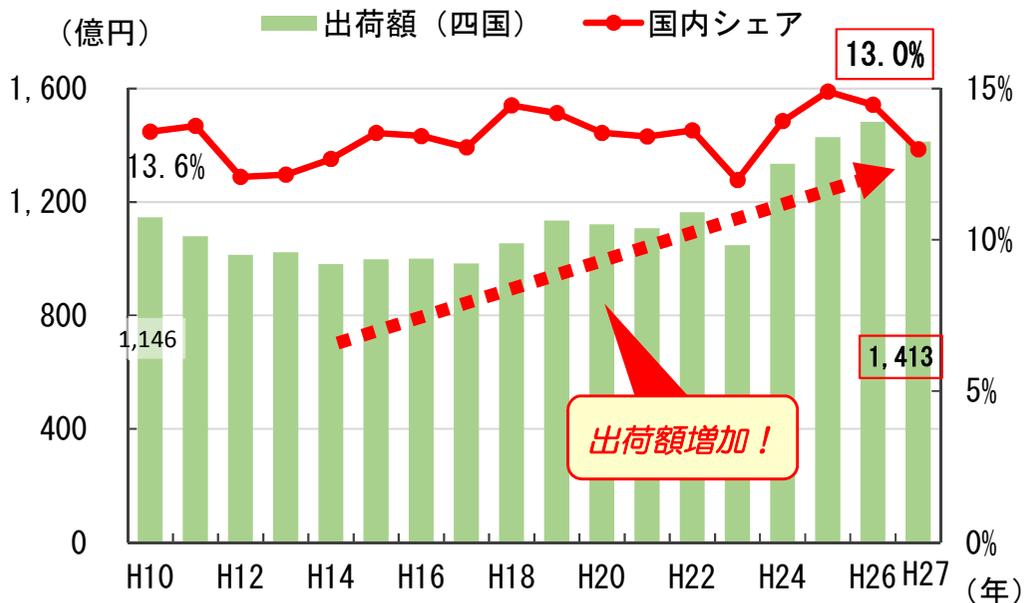
主に 神戸淡路鳴門自動車道を利用し、原材料を調達・製品を納品！



香川県から「冷凍食品」を全国へ出荷

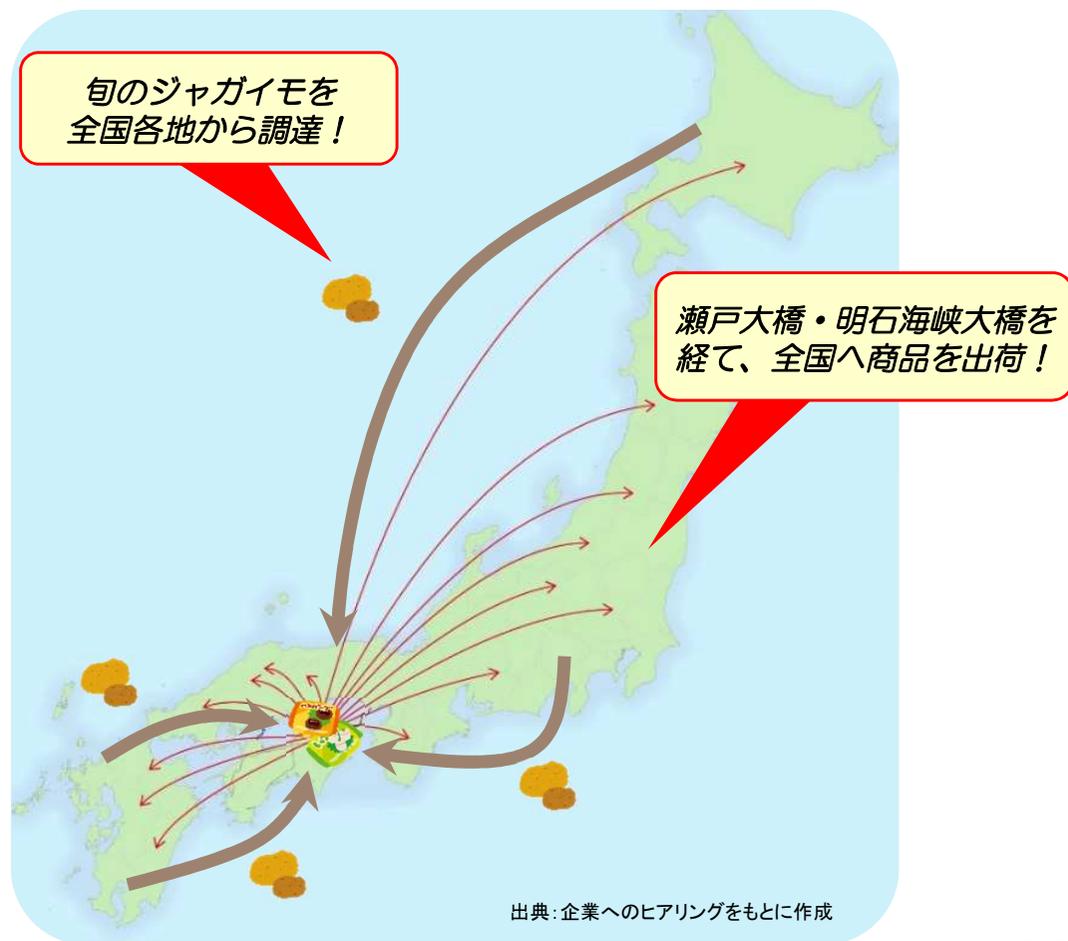
- 香川県内では、昭和30年代後半にエビなどの水産品の冷凍製品化が始まり、冷凍食品産業が発展を遂げてきました。
- 原材料を全国各地から調達するなどの工夫で、天候不順による不作等のリスクを軽減することで、安定した生産につながっています。
- 四国では「冷凍調理食品」の出荷額が増加しており、平成27年には約1,413億円（シェア13.0%）となっています。

■ 冷凍調理食品 出荷額の推移



注：平成23年は香川県のみ 出典：「工業統計調査」（経済産業省）より作成

■ 業務用冷凍ポテトコロケの入出荷イメージ



冷凍食品メーカー 管理担当者の声

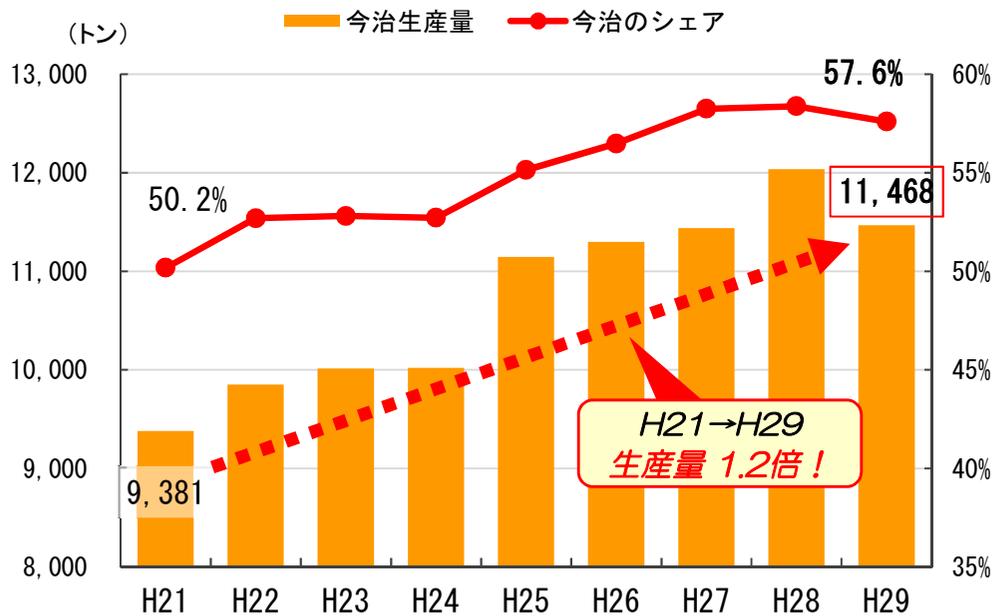


納品先の所在地に応じて瀬戸大橋と明石海峡大橋を使い分けています。以前は、ほとんどが瀬戸大橋経由でしたが、関西の納品先の増加に伴い、現在は関西・中部向けには明石海峡大橋経由で輸送しています。

高品質な「今治タオル」のシェア拡大

- 今治は、タオルづくりの「さらし」や「染め」に適した良質の水に恵まれており、タオル生産量日本一です。
- 今治市と生産者によるブランド戦略などで、「安心・安全・高品質」な製品として知名度を上げてきました。
- その結果、今治のタオル生産量は増加しており、平成29年の国産タオルに占めるシェアは約58%を占めています。

■ 今治のタオル生産量と国内シェア



H21→H29
生産量 1.2倍！

■ 原料綿糸とタオル製品の輸送ルート例



出典：企業へのヒアリングをもとに作成



タオル製造関係者の声

タオルをきっかけに今治を訪れる方もいらっしゃり、観光面にもプラスになっていると思います。

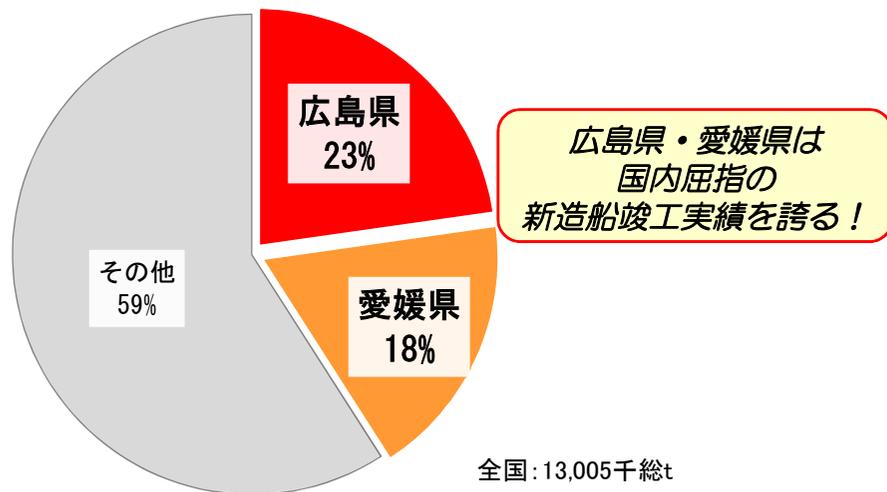


今治タオル製品

今治市島しょ部に造船所が移転、地域活性化に寄与

- 古くから海上交通の要衝であった広島県・愛媛県のしまなみ海道沿線地域は、造船関連産業の集積地です。
- 今治市のY造船所は、工場が手狭になったことなどから、今治市本土と来島海峡大橋でつながる大島へ移転しました。
- 約200名の従業員も引き続き新工場へ通勤しており、約30名増加した従業員のうち約7割を地元・大島で採用しています。

■新造船竣工実績(平成27年国内シェア)



出典：「日本造船工業会 造船関係資料」、「四国運輸局 管内造船資料」、中国運輸局資料より作成

■しまなみ海道沿線の造船所



Y造船所 担当役員の声

新工場は旧工場の4倍の敷地面積をとることができ、合理的なレイアウトにより徹底的なコストダウンを図ることができています。

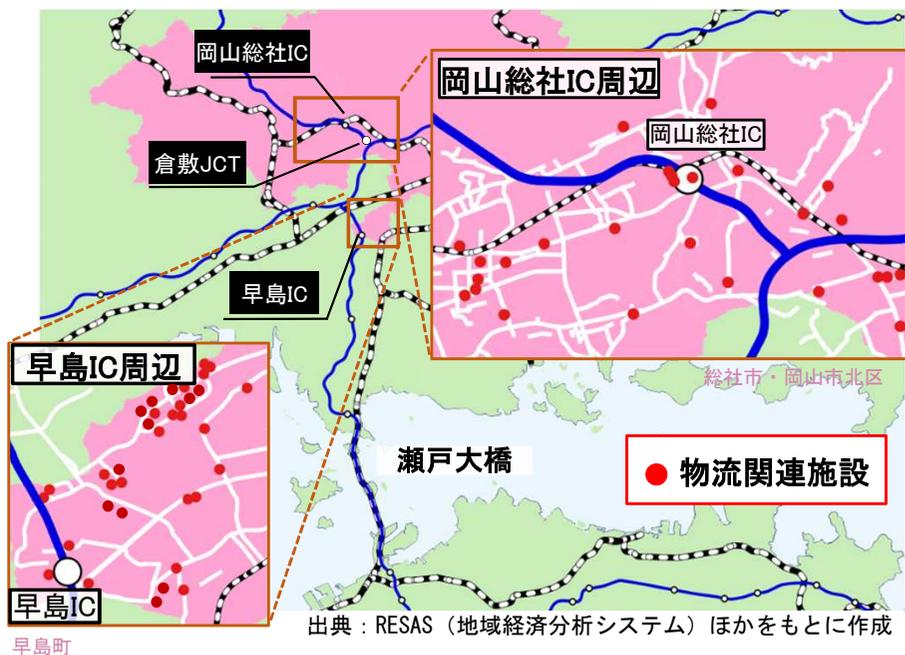
ただし、いくら良い用地があっても、「橋」がなければ移転しませんでした。



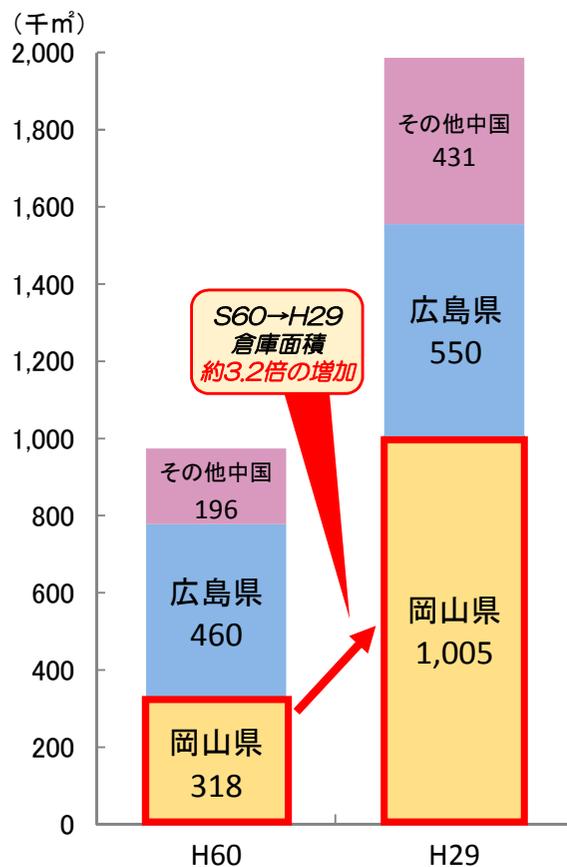
中四国の物流ハブとして機能が高まる岡山県

- 高速道路ネットワークの東西と南北が交差する岡山県は、物流のクロスポイントとして重要度が増加しています。
- 瀬戸大橋開通後は、早島IC付近で物流関連施設の立地が増加し、近年では岡山総社IC付近で大手通販会社の物流関連施設などが新設されており、岡山県の倉庫面積は中国地方で第1位です。
- 岡山県は、四国との貨物取引量において、大阪府に次いで第2位と四国との結びつきが強くなっています。

■岡山県(早島IC・総社IC)近辺の物流関連施設立地状況

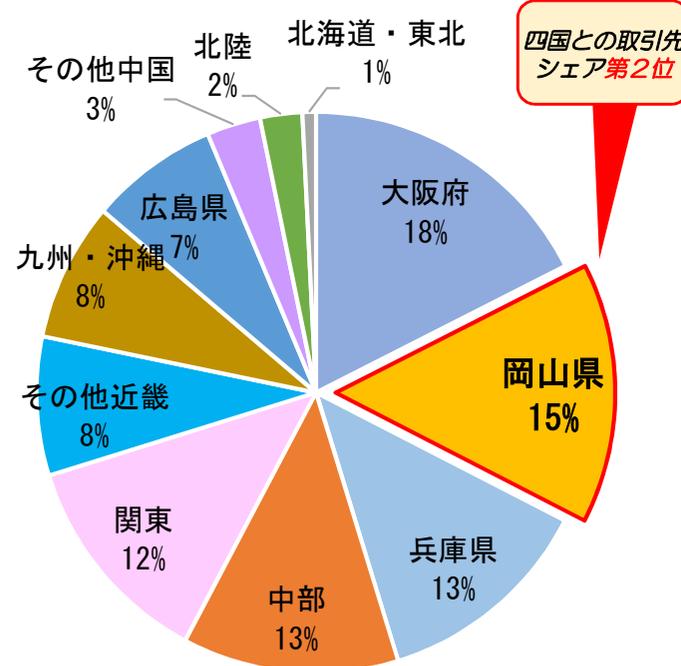


■中国地方における県別倉庫面積の推移



注：各年12月末値
出典：「倉庫統計季報」(国土交通省)より作成

■四国発着の自動車貨物流動量(平成28年)



注：地域内の流動は含まない
出典：「貨物・旅客地域流動調査」(国土交通省)より作成

大手スーパーマーケット担当役員の声

中国・四国地方の瀬戸内海沿岸部の都市周辺へ集中した店舗展開を行っています。そのクロスポイントとなる早島町に物流関連施設を集約することで、物流トータルシステムの効率化がはかれています。



坂出・坂出北IC近辺に物流関連施設が形成、就業者数が増加

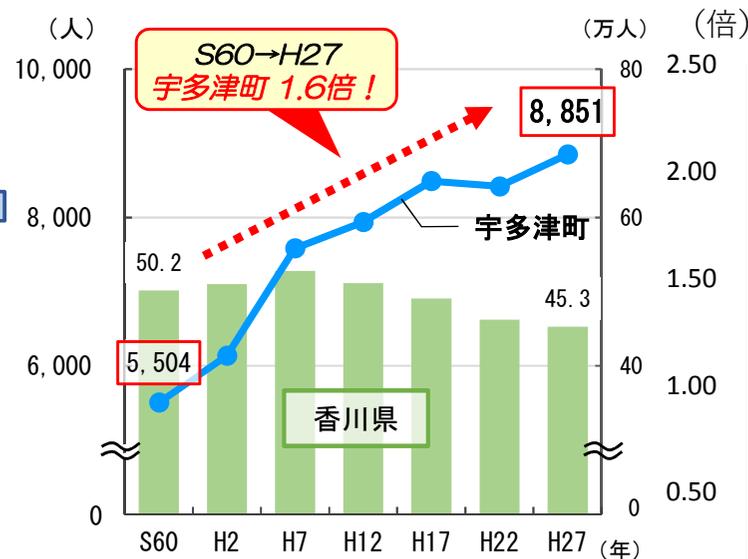
- 坂出・坂出北ICは、本州から四国への玄関口として、また四国内のアクセスが良いことから物流関連施設が増加しています。
- また、坂出市・宇多津町は、各自治体による立地促進対策等により、運輸業等の物流関連施設の立地が相次ぎ、就業者数は宇多津町では増加、有効求人倍率も坂出市・宇多津町を含むエリアが県内トップです。
- 近年では、坂出北ICに近接した番の州臨海工業団地にて、大規模物流関連施設が立地、約240人を地元で採用しています。

■坂出・坂出北IC近辺の物流関連施設立地状況



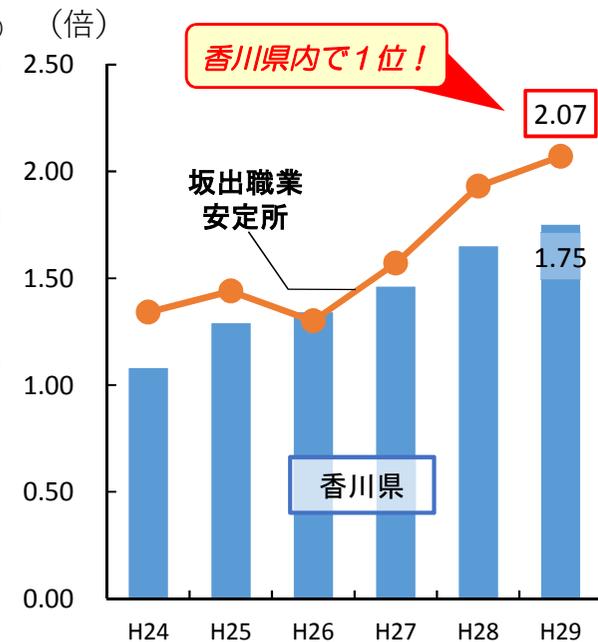
出典：RESAS（地域経済分析システム）ほかをもとに作成

■宇多津町 就業者数の推移



注：15歳以上就業者数
出典：「国勢調査」（総務省統計局）より作成

■坂出職業安定所の有効求人倍率



坂出職業安定所：坂出市、綾歌郡（宇多津町、綾川町）、丸亀市のうち飯山町、綾歌町
出典：厚生労働省香川労働局資料より作成

坂出市企業誘致担当者の声



A社の大規模物流関連施設以外にも、番の州臨海工業団地への企業進出が決まり、今後とも地元雇用への効果を期待しています。
また、物流企業から用地の問合せが増加していますが、一定面積の適地不足の解消が今後の取り組み課題です。

宇多津町担当者の声

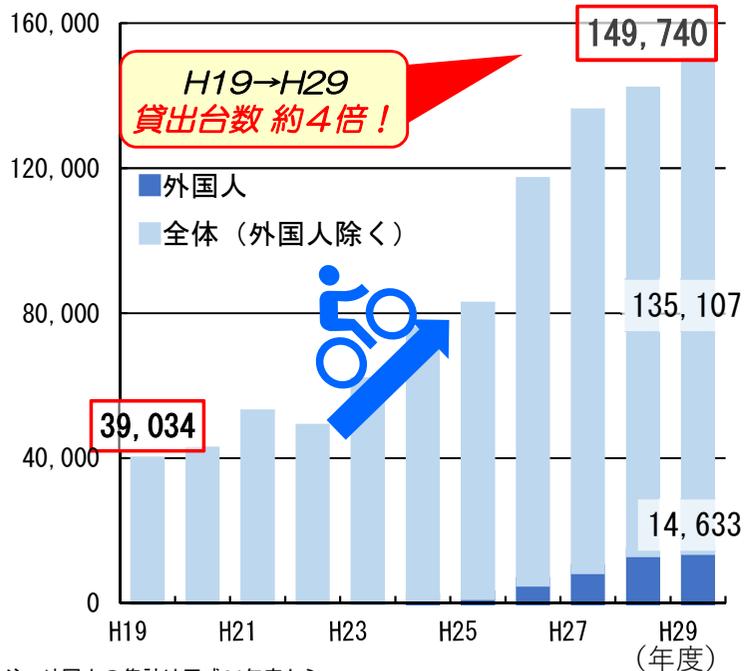


瀬戸大橋開通に伴う流通の高度化と区画整理事業や企業誘致がうまくリンクし、企業や人口が大幅に増加しました。
また、大型店や映画館等ができたことも重なり、町が賑わいました。

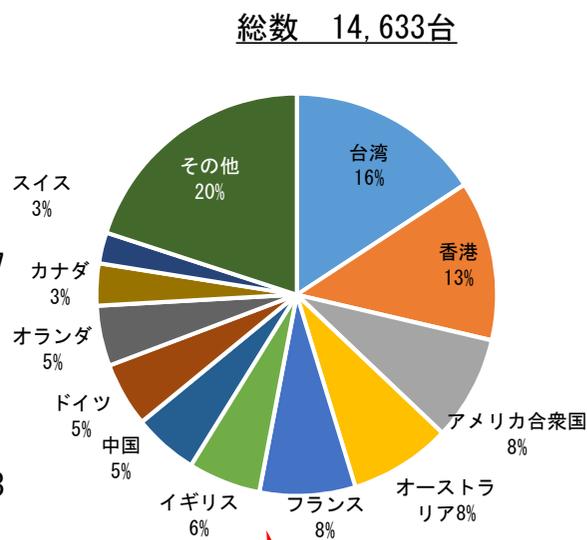
海外からも人気のあるしまなみ海道

- しまなみ海道は、アメリカCNNテレビで世界7大サイクリングルートの一つに選定されるなど海外からも注目されています。
- レンタサイクル貸出台数は、10年前の約4倍に増加しており、外国人の利用も多くなっています。
- しまなみ海道沿線の尾道市・今治市の県外観光客は増加しており、特に尾道市では外国人観光客が増加が顕著です。

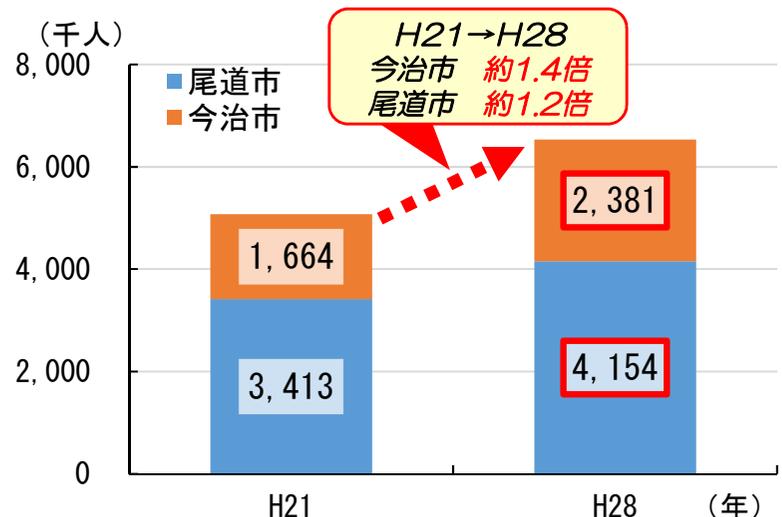
（台） ■ レンタサイクル貸出実績の推移



■ 外国人のレンタサイクル利用状況（平成29年度）

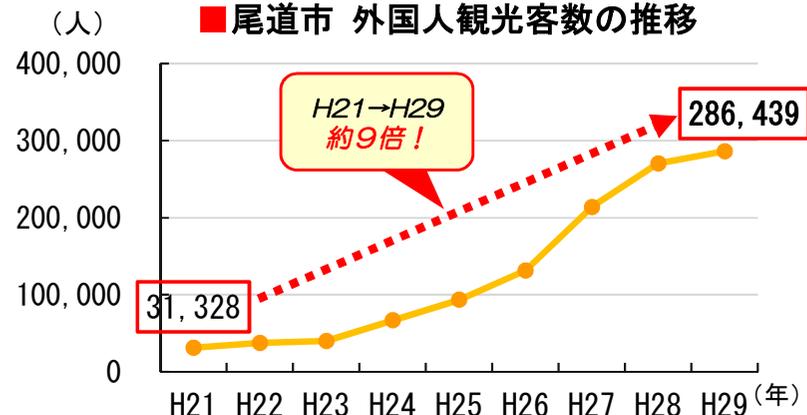


■ 尾道市・今治市 県外観光客数の推移



出典:「統計おのみち」(尾道市)、「今治市の統計」(今治市)より作成

■ 尾道市 外国人観光客数の推移



出典:「統計おのみち」(尾道市)より作成

外国人観光客の声

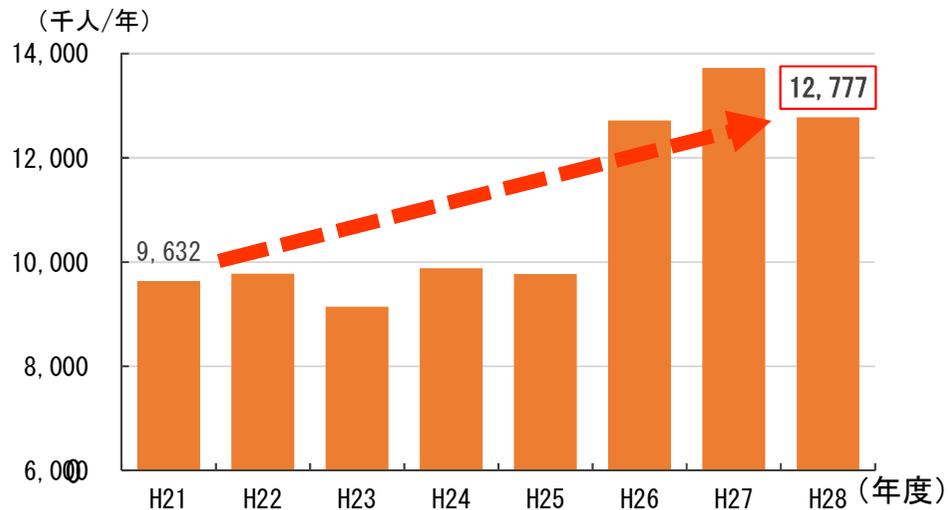
SNSで素晴らしいサイクリングロードがあることを知りました。
しまなみ海道から見た景色や、しまなみ海道を眺めた景色が素晴らしいです。
現地の人々はとてもフレンドリーでした。

しまなみ海道のサイクリングは外国人にも人気!

淡路島の観光客数が増加

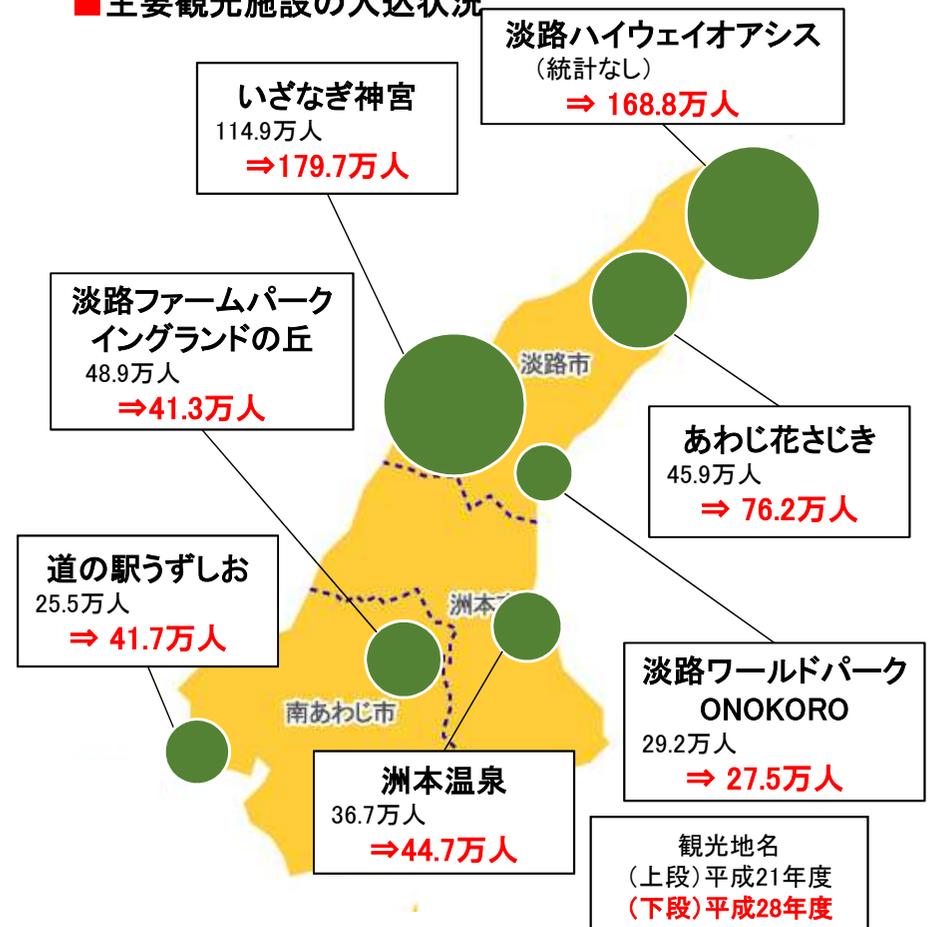
- 淡路島の観光客数は近年増加傾向にあり、平成28年度には約1,277万人が訪れています。
- 淡路島産食材を使用したグルメのPRや、大規模イベントの開催など、地元では積極的な観光客誘致を行ってきました。
- 明石海峡大橋によってアクセスしやすくなったこともあり、淡路島はリピーターが多く訪れる観光地の一つとなっています。

■ 淡路島の観光入込客数の推移



注：平成26年度より、調査地点に「淡路ハイウェイオアシス」（H26:1,798千人）を追加している
 出典：「兵庫県観光客動態調査報告書」（兵庫県）より作成

■ 主要観光施設の入込状況



出典：「兵庫県観光客動態調査報告書」（兵庫県）より作成



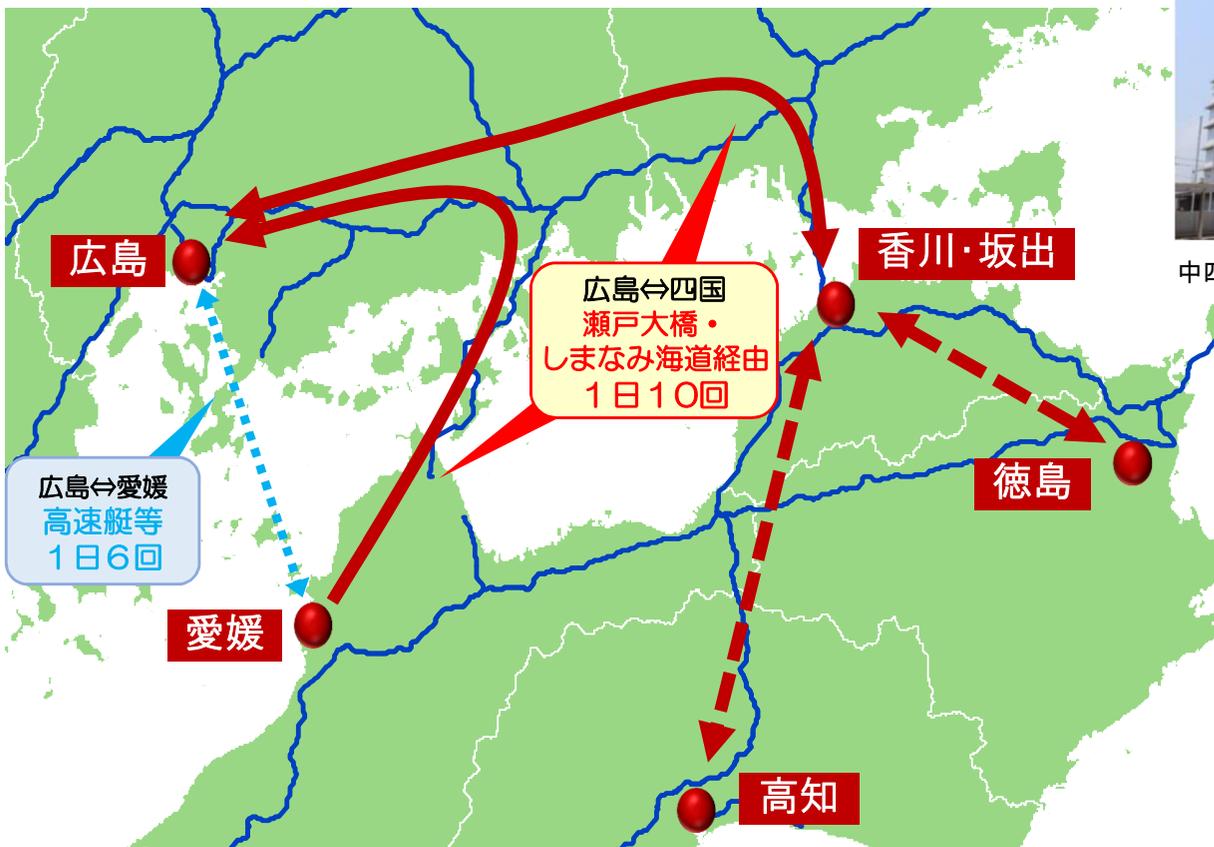
地元観光協会担当者の声

架橋後は自家用車で気軽に来られるようになり、ファミリー層や、若い人達も多く訪れるようになってきました。観光客の多くはリピーターで、観光を盛り上げようとする地域の努力と、アクセスのしやすさが相乗していると思います。

血液製剤の安定的な供給への貢献

- 血液製剤の検査・製造は、各県で行っていたため、必要な血液が不足することがありました。
- 本州・四国間に3本の橋があり確実に搬送できることから、平成24年4月以降、中国・四国地方の献血血液を中四国ブロック血液センター（広島県）に集約して検査・製造し、各県の血液センターに供給する運営体制に移行しました。
- 広島と四国間は、主に血液輸送車により搬送しており、瀬戸大橋またはしまなみ海道を経由する便が1日10回あります。

■ 中四国ブロック血液センター⇄四国間の搬送ルート



中四国ブロック血液センター（広島県）



血液輸送車



日本赤十字社 中四国ブロック血液センター の声

以前は、各県ごとに献血された血液を集め、その中でやりくりしてきましたが、必要な血液が集まらない日もあり、医療機関からの求めに応じられなくなる日もありました。

今では、各県で必要とされる血液量に応じて必要な分だけ安心して迅速に送れるようになりました。

四国に3本の橋が架かったことで、代替のルートがある安心感からこの体制に移行できました。

高度な医療機関の選択が可能に

- 岡山市は医療機関が充実しており、高度な医療サービスが受けられる医療先進都市です。
- 心臓病を専門とするS病院では、約1割が四国からの入院患者で、手術を目的として来院する患者が多くなっています。
- 患者の救急搬送にはドクターカーが使用され、四国へは年間約50件の出動があり、瀬戸大橋を渡って医療に貢献しています。

■香川県から岡山県への救急搬送



■ドクターカー



S病院では、ドクターカーを2台保有し、一時的に急患を受け入れた病院から救急搬送を行っています。

ドクターカー：
専用の医療機器を搭載し、
医師・看護師が同乗する救急車



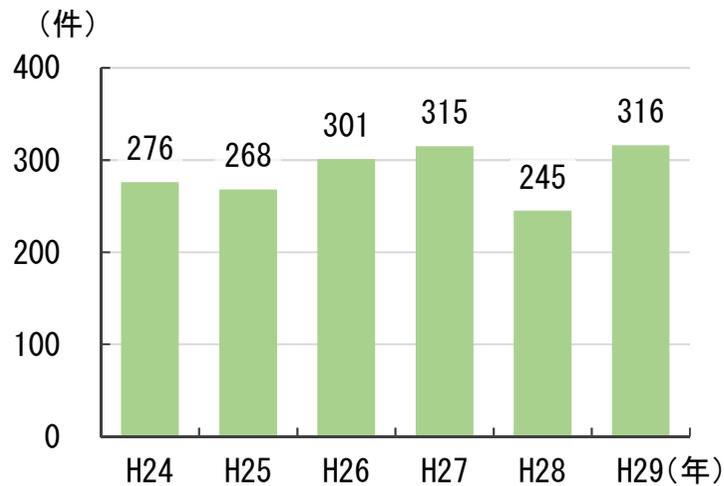
S病院 広報担当者の声

ドクターカーの出動件数は1年間に約350件です。そのうち約50件が四国で、そのほとんどが香川県です。瀬戸大橋があることで救われた命もあります。

しまなみ海道島しょ部における救急搬送

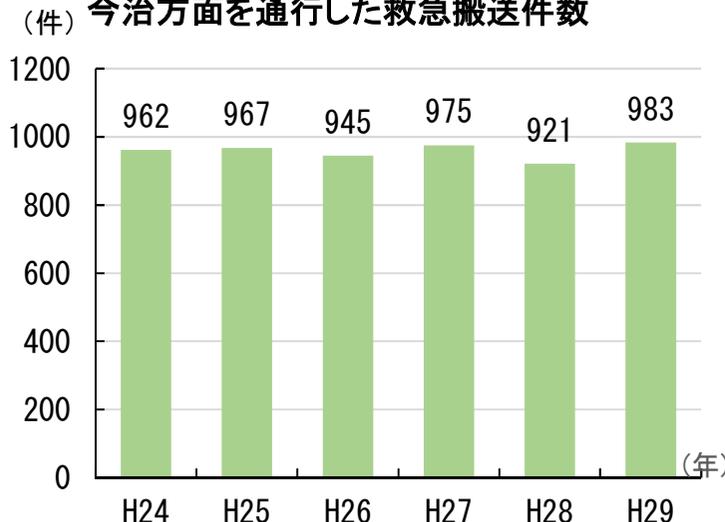
- しまなみ海道を通行した救急搬送は、尾道市の生口島から年間250～300件、今治市の島しょ部（大三島、伯方島、大島）から年間900～1,000件程度発生しています。
- 以前は市営フェリーや小型船を用意しての救急搬送でしたが、しまなみ海道の開通によって終日・即時の搬送が可能となり、住民の「安心」に貢献しています。

■ 生口島から尾道方面を通行した救急搬送件数



出典：尾道市消防局提供データより作成

■ 今治島しょ部(大三島、伯方島、大島)から今治方面を通行した救急搬送件数



出典：今治市消防本部提供データより作成



消防関係者の声

生口島の瀬戸田地区では、生口橋開通前の救急搬送は市営フェリーに頼っており、出航時間に搬送を合わせたり、夜間には小型の船を用意して搬送する必要がありました。

しまなみ海道の開通により、尾道市・福山市内の病院へ終日・即時の搬送が可能になりました。



消防関係者の声

伯方島の伯方地区では、消防艇で約1時間かかっていた搬送時間が、救急車で約20分になりました。

また、消防艇では2度傷病者を乗せ変えていた移動に伴う負担も軽減しました。

件数も400件程度だったのが、2倍以上に増加しました。

本四3ルートによる代替路としての機能①

- 平成30年は豪雨や台風が多発して各種交通機関の通行止め・運休が発生しました。
- 平成30年9月の台風21号により、神戸淡路鳴門自動車道と瀬戸大橋が通行止めとなりましたが、しまなみ海道が迂回路として機能し、交通量が約65%増加しました。

■台風21号通行止め時の交通量の増減



■台風21号による通行止め時間

路線	9月4日(火)
神戸淡路鳴門自動車道	10:00 ← 約9時間 → 18:40
瀬戸大橋	9:45 ← 約7時間 → 17:00
しまなみ海道	通行止め無し



物流関係者の声

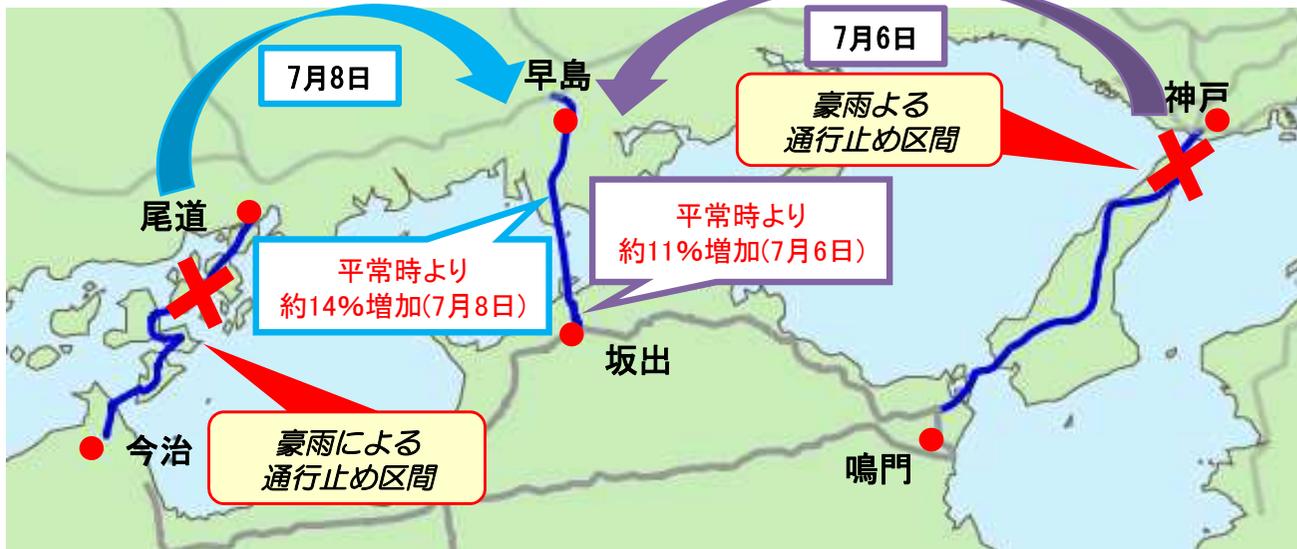
台風などで、通常利用するルートが通行止めの際は、通行可能な他のルートへ迂回しています。

本州・四国間には3本ルートがあるので、万が一通行止めがあっても、到着日時に関して荷主の要望に応じることが出来ます。

本四3ルートによる代替路としての機能②

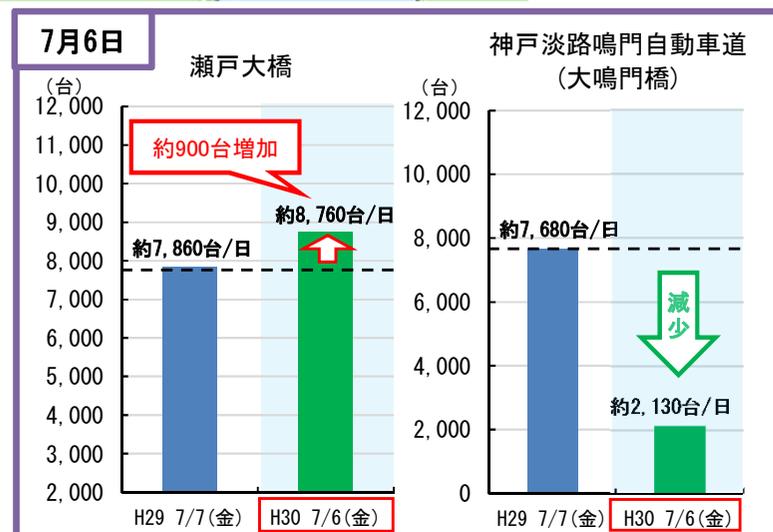
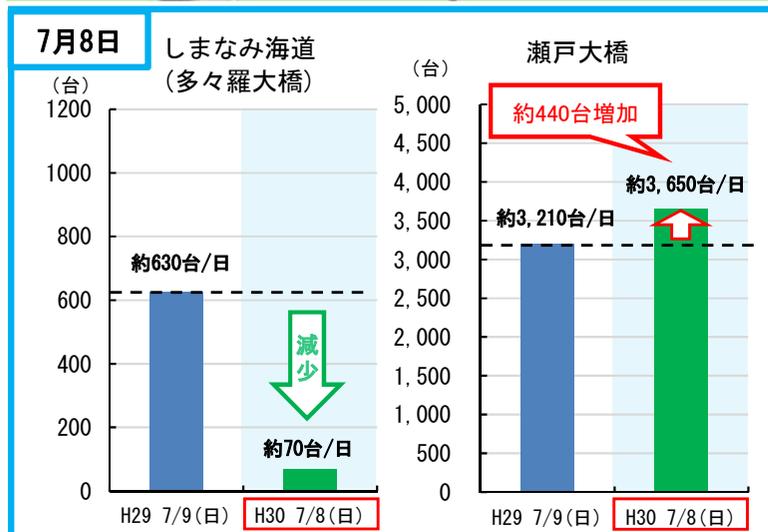
- 平成30年は豪雨や台風が多発して各種交通機関の通行止め・運休が発生しました。
- 平成30年7月6日の豪雨により神戸淡路鳴門自動車道が通行止めとなり、また、7月8日の豪雨によりしまなみ海道が通行止めとなりましたが、瀬戸大橋が迂回路として機能しました。

■ 7月豪雨による通行止め時の交通量の増減



■ 7月豪雨による通行止め時間

路線	7月6日(金)	7月7日(土)	7月8日(日)
神戸淡路鳴門自動車道	1:00 ← 約44時間 → 20:30		
瀬戸大橋		5:30 ← 約11時間 → 16:00	
しまなみ海道			22:30 ← 約43時間 → 17:00

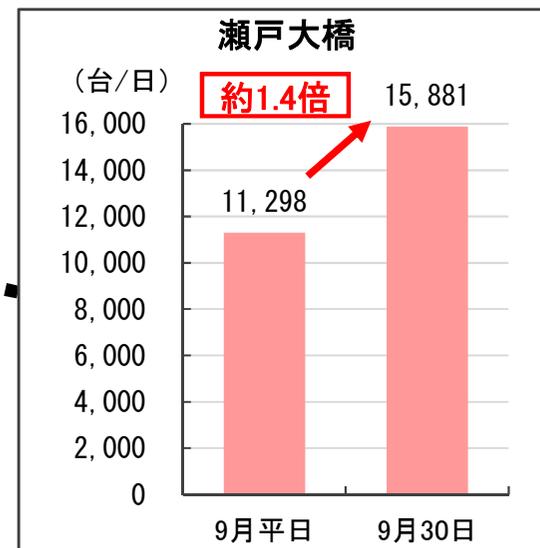
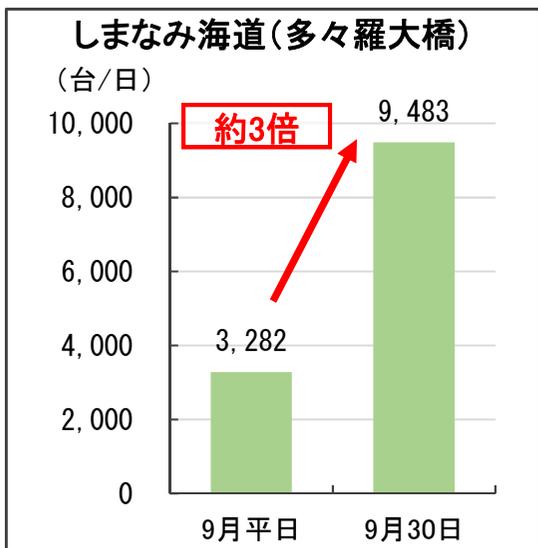


※対象は中型車以上
出典：J日本四高速資料

リダンダンシー確保により社会経済活動を支援

- 平成16年9月29日に四国地方を襲った台風21号により、愛媛県内の国道11号・松山自動車道・JR予讃線で通行止め・運休が発生し、愛媛方面と香川・徳島方面を結ぶ幹線道路・鉄道が、数日間寸断されました。
- その際、しまなみ海道と瀬戸大橋が代替路となり、災害時の社会経済活動の維持に貢献しました。

■平成16年台風21号直後の交通量増加



■平成16年台風21号により通行止め・運休となった区間とその期間

路線	区間	通行止め・運休期間
一般国道11号	新居浜市船木	9/29(水)～10/1(金)
松山自動車道	三島川之江～いよ小松	9/29(水)～10/4(月)
JR予讃線	川之江駅～伊予西条駅	9/29(水)～10/7(木)

■代替路を利用した新聞配送の例



香川県内の印刷工場から、瀬戸大橋・山陽道・しまなみ海道を經由し、愛媛方面の販売店へ配送しました。